

平成17事業年度に係る業務の実績に関する報告書

平成 1 7 年 1 2 月

国立大学法人
高岡短期大学

大学の概要

(1) 現況

大学名

高岡短期大学

所在地

富山県高岡市二上町180番地

役員状況

西頭徳三(高岡短期大学長)(平成16年4月1日～平成17年9月30日)

理事数 3(常勤2,非常勤1)

監事数 2(非常勤)

学科等の構成

学科

産業造形学科

産業デザイン学科

地域ビジネス学科

専攻科

専攻科産業造形専攻

専攻科産業デザイン専攻

専攻科地域ビジネス専攻

学生数及び教職員数 (()は私費外国人留学生で内数)

産業造形学科 102人(1人)

産業デザイン学科 54人

地域ビジネス学科 268人(2人)

計 424人(3人)

専攻科産業造形専攻 48人(1人)

専攻科産業デザイン専攻 17人

専攻科地域ビジネス専攻 17人(3人)

計 82人(4人)

教員数 56人

職員数 36人

計 92人

(2) 大学の基本的な目標等

高岡短期大学は、地域の多様な要請に積極的にこたえ、広く地域社会に対して開かれた特色ある短期大学として設置された。

このことを踏まえ、高岡短期大学は、教育を重視し、実践的、経験的な熟練教育を実施するとともに、感性豊かな、地域で活躍できる人材の育成を行い、また、地域社会に対し各種知的サービスを提供し、地域の産業・芸術・文化の発展や生涯学習の推進に役立つ、地域と共に発展する短期高等教育機関となることを目標とする。

全体的な状況

高岡短期大学の平成17年度年度計画の実施にあたっては、平成17年10月に富山大学、富山医科薬科大学及び高岡短期大学の富山県内3国立大学法人の再編・統合を控え、その準備作業が本格化するのと並行しつつ、高岡短期大学としての計画を、年度途中にその実施状況を確認しながら予定どおり実施した。

平成17年度における高岡短期大学の主な活動状況は次のとおり。

1 大学運営について

法人化したことに伴い、管理運営体制として、経営協議会及び教育研究評議会を次のとおりの構成とし、大学運営にあたった。

(1) 経営協議会(12人、平成17年度開催実績:2回)

- | | |
|-----------|----|
| 1) 学長 | |
| 2) 理事(常勤) | 2人 |
| 3) 学科長 | 3人 |
| 4) 学外委員 | 6人 |

(富山県副知事、高岡市長、高岡商工会議所会頭、高岡市生涯学習センター所長、前京都工芸繊維大学長、高岡市デザイン・工芸センター所長)

(2) 教育研究評議会(18人、平成17年度開催実績:9回)

- | | |
|-----------------------------|----|
| 1) 学長 | |
| 2) 理事(常勤) | 2人 |
| 3) 学科長 | 3人 |
| 4) 図書館長 | |
| 5) 保健管理センター所長 | |
| 6) 学長補佐 | 4人 |
| 7) 学科から推薦された者のうちから学長が指名する教授 | 6人 |

2 富山県内3国立大学の再編・統合について

富山大学、富山医科薬科大学及び高岡短期大学は、様々な議論、協議を重ねた結果、再編・統合し新大学を創設することに平成15年5月に合意した。

このことを受けて、3大学において新大学設置準備のための協議を進め、平成16年6月に大学設置・学校法人審議会に対し、新大学を平成17年10月1日に開学する旨の設置認可申請書を提出し、平成16年11月には、設置を可とする旨の回答があった。

新大学の設置準備にあたっては、3大学の代表で構成する新大学創設準備協議会及び新大学創設準備推進委員会を設置し、その下に置く各種部会、ワーキンググループ等で詳細について検討を進めた。

なお、本学では学長を委員長とする芸術文化学部設置準備委員会を設置し、芸術文化学部の設置目的「芸術を極めることを主眼を置く教育・研究だけではなく、むしろ芸術文化に対する感性と幅広い分野の知識・技術を活用し、人間と自然や社会との関わりを見つめ、そこに存在する数々の問題を発見し、解決しようとする自発的に行動する意欲的な人材の育成と、地域の幅広い伝統産業を継承し、一層発展させることのできる人材の育成を目指し、意欲的な教育・研究を展開しようとするものである。」のため運営組織、教育課程の編成、その他重要事項の検討を行った。

また、芸術文化学部設置準備委員会の下にワーキンググループを置き、施設・設備、芸術文化系大学院の設置、各コースのカリキュラム等について検討を進めた。

3 平成17年度「現代的ニーズ取組支援プログラム」について

本学は、平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)に申請を行い、1件採択された。

(採択された取組)

平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」

テーマ名: 地域活性化への貢献(地元密着型)

取組名称: 非言語と言語の融合による地域国際化教育
- 世界に開かれた高岡まちづくり -

取り組みの概要: これからの地域社会は、国際化・外客誘致に向けて具体的に行動することが求められている。本学はこれまで地元高岡市と密着した教育を行ってきたが、本取組みでは、関連授業に地域組織・住民の参加を求め、世界に開かれた教材を導入することにより、この新しい地域ニーズに応える。

4 大学開放活動

本学は、地域社会との密接な連携の下に本学の教育研究等を広く地域社会に開放し、地域の要請に積極的に応える大学開放事業を実施しており、この大学開放事業を総括し推進するための教育研究施設として大学開放センターを設置している。

平成17年度大学開放事業としては、次のとおり実施した。

- | | |
|----------|---|
| (1) 公開講座 | 20講座(一般講座13, 国際化講座1, 事務能力啓発講座2, 連携公開講座(高校生2, 看護学校生1), ものづくり体験講座1) |
| (2) 公開授業 | 前期: 106科目中20科目受講 |
| (3) 展示公開 | 各種作品展示等8回開催 |
| (4) 施設開放 | 利用者数: 延べ13,622人 |
| (5) 技術相談 | 7件実施 |

5 国際交流

本学は、大連外国語学院(中華人民共和国)、ラハティ・ポリテクニク(フィンランド)及びウエスタンオレゴン大学(アメリカ合衆国)との間で大学間交流協定を締結し、短期語学研修や学生の派遣・受入を通じて交流を図ってきた。

平成17年度は、次のとおり実施した。

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| (1) 短期語学研修 | |
| 大連外国語学院 | (地域ビジネス学科14名平成17年8月実施, 3週間) |
| ウエスタンオレゴン大学 | (地域ビジネス学科13名平成17年8月~9月実施, 4週間) |
| (2) 大学間交流協定に基づく学生の派遣・受入 | |
| ラハティ・ポリテクニク | 派遣 3名, 平成17年9月から9ヶ月 |
| | 受入 4名, 平成17年9月~平成18年5月 |
| (3) 私費外国人留学生特別選抜による外国人留学生 | |
| 平成16年度入学 | 2人(中国2) |
| 平成17年度入学 | 5人(中国4, 韓国1) |

6 芸術文化学部創設記念シンポジウム

本学は、芸術文化学部の創設を記念して、芸術文化関係者・教育関係者等を対象にシンポジウムを開催した。

テーマ: 日本の未来と地方, 芸術文化, 教育

パネリスト: 養老孟司氏, 安川英昭氏, 中村史郎氏, 妹島和世氏

項目別の状況

大学の教育研究等の質の向上
1 教育に関する目標
(1) 教育の成果に関する目標

中期目標	<p>学科 多様な分野で専門的知識や技術を身に付けるための教育を行うと同時に、多様な分野を融合した教育サービスを提供し、一定の専門的能力を持ちつつ、同時に、いくつかの分野に対する理解力が高い学生、柔軟性のある学生を育てることを目標とする。</p> <p>専攻科 学科2年間の基礎の上に、地域社会と密接な関連をもつ専門分野について、更に2年間の教育を行い、精密さと広がりを持つ高度の知識と技術を修得し、我が国とりわけ地域の産業・芸術・文化の発展に積極的に貢献できる人材を育成することを目標とする。</p>
------	---

中期計画	年度計画	計画の進行状況等	
<p>教育の成果に関する具体的措置</p> <p>学科 ・基礎教育においては、情報リテラシー教育と語学教育を重視するとともに、融合教育を推進するため、学科、コースが異なる学生が共に学べるクラス編成、カリキュラム編成を行う。 ・専門教育においては、各コースのコアとなる必修科目を設定すると同時に、学生の希望に応じ他学科のコア科目をも履修できるような自由度の高いカリキュラムを編成する。例えば、「芸術的センスのあるビジネスマン、エンジニア」、「マーケティングができるデザイナー、工芸家」、「コンピューターが扱える工芸家」といった「感性」と「知性」をバランス良く養う教育を行う。</p> <p>専攻科 産業造形専攻 金属、漆、木材に係る専門分野を横断的に学び、修得した能力を社会のニーズに対応して意識的に発展させる力を養う教育を行う。 産業デザイン専攻 刻々と変化する時代や社会に潜在するニーズを的確に把握し、その解決策を提案する企画力、あるいはデザインの情報性を考察できる力を養う教育を行う。 地域ビジネス専攻 経営、情報、外国語の能力が融合した多様な能力を持ち、地域の企業・自治体等のニーズに応じて発展させる力を養う教育を行う。</p>	<p>教育の成果に関する具体的措置</p> <p>平成16年度教育GPに採択された、2つの本学の取組について、次のとおり実施する。</p> <p>平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」に採択された本学の取組である「学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト」を実施し、取りまとめを行う。</p> <p>平成16年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択された本学の取組である『「炉端談義」方式による地場産業活性化授業 - 地域と一体となった授業計画・実施・評価委員会によるものづくり教育 - 』を実施し、取りまとめを行う。</p>	<p>特色GP「学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト」を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組みの継続・推進として 特別講演「社会性を持ったものづくりの重要性」平成17年6月17日(金) 特別講演「木工手道具に込められた工夫と手仕事の重要性について」 特別講演「素材を切る一鋭利な刃物での切削と仕上がりの美しさ」 ・教育成果等の視覚化として 展示写真パネルの作成(35件) ・教育環境の改善として 加工機械用手元照明の設置(13台) ・生活者意識等の実態調査として 視覚化工夫についての調査(東京:平成17年6月22日(水)~24日(金)) 海外調査(スウェーデン:平成17年9月18日(日)~27日(火)) ・地域連携基盤づくりのため データベースシステム構築(業者発注済み) <p>「炉端談義プロジェクト」として、「地域産業史」アンケート、「地場産杉を使用したインテリア・家具の提案」、「デザインの進め方」、「リビングデザイン」、「工芸品のお土産についてのデザインリサーチ」及び漆や金属の取組を実施している。 9月末までに、計5回の「炉端談義」委員会を高岡短期大学で開催した。</p> <p>炉端談義シンポジウムを開催 日時:平成17年7月30日(土)14時00分~ 場所:高岡短期大学 講堂 第1部「炉端談義プロジェクト」取組報告 第2部パネルディスカッション テーマ「工芸都市『高岡』をキャンパスに！」 講師・中川 衛氏(金沢美術工芸大学教授、人間国宝(加賀象嵌)) ・植松豊行氏(松下電器産業(株)、パナソニックデザイン社社長) ・野田雄一氏(富山ガラス造形研究所教授)</p> <p>第3部交流会</p> <p>特色GP・現代GP合同シンポジウムを開催予定 予定日時:平成18年3月22日(水) 予定場所:富山大学高岡キャンパス</p>	

中期計画	年度計画	計画の進行状況等	
<p>卒業後の進路</p> <p>・就職については、関心に応じて多様な分野に就職できるよう就職支援を充実させ、4年制大学と同等以上の就職率を確保する。 ・進学については、本学専攻科への進学や4年制大学3年次への編入学を推進する。</p>	<p>卒業後の進路</p> <p>・就職説明会や進路説明会等を実施する。</p> <p>・学科進路担当教員と就職担当専門員が連携し、年間を通して学生指導にあたる。</p>	<p>次のとおり、就職説明会や進路説明会等を実施し、学生の就職や進学等についての心構えと士気を高めた。</p> <p>就職説明会（学科，専攻科2年生対象：平成17年4月，227人参加） 保護者との進路懇談会（平成17年7月，58人参加） ものづくり工場見学会 (産業造形学科及び産業デザイン学科1年生対象：平成17年10月予定，定員40人) 進路説明会（学科，専攻科1年生及びその保護者対象：平成17年11月予定） 専攻科進路説明会（専攻科1年生対象：平成17年12月予定） 進路情報交流会（学科コース別に実施，平成18年1～2月予定） 美術系学生対象の就職セミナー（学科，専攻科1年生対象，平成18年1月予定）</p> <p>平成17年4月に学生に提出させた進路希望調に基づき、学生への求人情報の提供を通して、学生毎に個別に進路指導を行っている。 進路担当教員だけでなく、各教員のネットワーク、卒業生のネットワークを通して進路指導にあたる。</p>	
<p>教育の成果・効果の検証</p> <p>・卒業・修了の研究・制作については、研究発表、卒業・修了制作展を開催し学内外に公開するとともに、複数教員による評価などを採り入れた評価方法の改善に取り組む。また、制作に関して、各種作品展の開催、学外の公募展や各種コンクールへの応募、出品の促進を図る。</p>	<p>・卒業・修了制作展を平成18年2月に富山市で学外展を開催する。また、3月には学内展を開催する。</p> <p>・各種作品展は、学内において「金工展」、「樹木との語らい展」、「漆工展」、「デザイン関係作品展」及び「三造展」を開催する。</p> <p>・交流協定校であるラハティ・ポリテクニク(フィンランド)で学生</p>	<p>卒業・修了制作展を次のとおり開催する。</p> <p>【学外展】 富山県民会館(美術館)平成18年2月10日(金)～14日(火) 5日間(予定)</p> <p>【学内展】 富山大学高岡地区(エントランスホール) 平成18年3月18日(土)～24日(金) 7日間(予定)</p> <p>次のとおり各種作品展を学内外において20回開催する。</p> <p>金屋町「さまのこ」フェスタ(平成17年4月：高岡市金屋町) 「地場産材を使用したインテリア・家具の提案」展(平成17年6～8月：氷見市海浜植物園，本学，氷見クリニック，ウイングウイング高岡) 高岡短期大学の紹介(平成17年6月：ウイングウイング高岡) 日本-フィンランド響きあう心展(平成17年6～7月：本学) 「洗心苑」のための家具制作作品展(平成17年7月：本学) 現代GP「炉端談義プロジェクト」展(平成17年7～8月：本学) ラハティポリテクニクとの学生作品相互交流展(平成17年9月：ラハティポリテクニク(フィンランド)) 特別展「高岡短期大学展」(平成17年9月：本学) 産業デザイン学科学生作品展(ビジュアル基礎表現)(平成17年10月：本学)(予定) 第21回金工展(平成17年10月：本学)(予定) 第21回樹木との語らい展(平成17年10月：本学)(予定) 第19回漆工展(平成17年10月：本学)(予定) さまのこアートインよっさ(平成17年10月：高岡市吉久)(予定) 第10回三造展(平成17年10月：本学)(予定) 公開講座受講者作品展(平成17年10月：本学)(予定) 産業デザイン学科学生作品展(CIデザイン，製品デザイン，CG演習)(平成17年12月：本学)(予定) 産業デザイン学科学生作品展(デザインの進め方)(平成18年1月：本学)(予定) 産業造形学科学生作品展(CG入門，CG演習)(平成18年1月：本学)(予定) 産業デザイン学科学生作品展(新聞広告評価展示)(平成18年3月：本学)(予定) 高岡短期大学卒業・修了制作展(平成18年2月：富山県民会館美術館，平成18年3月：本学)(予定) 詳細は、「資料編」の資料1(1頁)参照</p> <p>学生作品21点をラハティ・ポリテクニク(フィンランド)にて展示公開した。 平成17年9月9日(金)～22日(木)14日間</p>	

<p>作品展を実施する。</p>	<p>・卒業研究，修了研究の発表会を積極的に開催し，研究報告書等を本学図書館において公開する。また，その電子化についても検討する。</p>	<p>卒業・修了制作展の担当教員，学生を選出し，準備を始めている。 修了制作の電子化は，特別授業「電子出版」において学生に学習させた。（前期） 発表会時に全作品の目録を作成し，来場者，その他関係機関へ配付した。</p> <p>地域ビジネス学科情報コース，専攻科地域ビジネス専攻において，卒業研究の中間発表会を実施した。</p>	
	<p>・学外のコンクール等への参加の促進を図るため，学生への，各種コンクール等に関するパンフレット，ポスターなどの情報提供及び支援を充実する。</p>	<p>制作した授業の成果物に対して，出品を促している。 20以上のコンペ，展覧会，ワークショップなどのポスターを貼り出し，学生への参加を促した。その結果，毎日・DAS（社団法人 総合デザイナー協会）学生デザイン賞に入選4名等の成果を得た。また，富山県デザイン展（平成17年11月開催予定）への出品も予定している。 詳細は，「資料編」の資料2（3頁）参照</p>	
<p>・専攻科修了時に学士の学位取得を希望する者が，大学評価・学位授与機構の審査に合格し学位を授与されるよう支援する。</p>	<p>・専攻科生については，学位取得を目指した履修指導を行うとともに，12月に学位審査申請のための説明会を開催する。</p>	<p>・学位申請のためのガイダンスを実施 新入生オリエンテーション 平成17年4月5日（火） 学位申請書類の確認・個別指導（33名分） 進路説明会での学位申請ガイダンス（平成17年12月開催予定）</p>	

大学の教育研究等の質の向上
 1 教育に関する目標
 (2) 教育内容等に関する目標

中 期 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ アドミッション・ポリシーとして、短い勉学期間の2年間に集中的に学習し、その間改めて自分の進路の選択を真剣に考える積極的な学生を求める。 ・ 明確な志望動機、勉学への強い関心と意欲をも踏まえ、入学者の適性を評価できる選抜を行う。 ・ 学生が多様な専門性に触れ、できる限り新たな可能性に挑めるよう「融合教育」を促進させる。 ・ 少人数教育を重視し、きめの細かい教育サービスを提供する。 ・ 地域社会に役立つ実践的な能力・技能の育成ができる授業形態や学習指導を行う。 ・ 客観性、透明性を重視した成績評価を実施する。
------------------	--

中期計画	年度計画	計画の進行状況等																					
アドミッション・ポリシーに応じた入学者選抜 ・ 入学者選抜に当たっては、学力検査、実技検査のほか、面接を受験者全員に行う。	アドミッション・ポリシーに応じた入学者選抜 ・ 入学者選抜（専攻科）に当たっては、小論文のほか、面接を受験者全員に行う。	各専攻ごとにアドミッション・ポリシーに基づき作成した面接票を用いて面接を実施した。面接では、過去に制作した作品や調査書等の評価を含め、短期大学2年間の基礎の上に、更に専攻科2年間の教育を受けるに相応しい資質を持ち合わせているかどうかの観点から評価を行った。 夏期選抜の実施結果は、次のとおり。平成18年1月に各専攻とも若干名の募集で冬期選抜を行う。 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>専攻</th> <th>入学定員</th> <th>受験者</th> <th>合格者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>産業造形</td> <td>14</td> <td>26</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>産業デザイン</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>地域ビジネス</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>25</td> <td>41</td> <td>31</td> </tr> </tbody> </table>	専攻	入学定員	受験者	合格者	産業造形	14	26	19	産業デザイン	5	5	4	地域ビジネス	6	10	8	計	25	41	31	
専攻	入学定員	受験者	合格者																				
産業造形	14	26	19																				
産業デザイン	5	5	4																				
地域ビジネス	6	10	8																				
計	25	41	31																				
・ 目的意識が明確な社会人や一定の日本語能力を有し、勉学意欲が高く勉学に専心できる留学生を積極的に受け入れることとし、そのための特別選抜を実施する。		(新) 富山大学で実施するため、平成17年度の計画はない。																					
・ アドミッション・ポリシーを含む入学試験情報の発信を積極的に展開し、受験生に対する情報提供に努める。	・ 芸術文化学部への設置に向けて、アドミッション・ポリシーを確立し、学内外に周知徹底し、次のとおり全学一丸となった受験生獲得の活動を行う。 全国および北陸三県に向けた広報活動の実施 広報資料の作成と配布 イベントの計画と実施	芸術文化学部の受験生獲得を目指し、受験生及び高校教員・美術予備校教員に同学部への理解をさらに深めてもらうことを目的として、下記のとおり教員向け説明会及び受験生向けオープンキャンパスを実施した。 説明会、オープンキャンパス開催にあたっては、開催案内のチラシを作成し、従来から志願実績のある高校・予備校に加え、昨年からは各地を訪問し開拓した高校・予備校にも開催通知とともにチラシを送付し、周知に努めた。 説明会、オープンキャンパスの実施状況は次のとおり。 (教員向け説明会) 開催日 平成17年6月28日(火) 参加者数 74校83名 実施概要 芸術文化学部の概要及び入試方法の説明に加え、識者による講演会を実施した。 (オープンキャンパス) 第1回 開催日 平成17年7月21日(木) 参加者数 75校 232名 第2回 開催日 平成17年8月4日(木) 参加者数 92校 286名 実施概要 芸術文化学部の概要、入試方法の説明、キャンパスツアー、各コースの詳細な説明及び模擬授業を実施した。 各地で開催される業者企画の大学説明会や高校内で開催されるガイダンス																					

		<p>に説明者を派遣し、芸術文化学部のPRに努めた。 (開催回数) (派遣者数) 業者主催大学説明会 16回 延べ41人 高校内ガイダンス 4回 延べ7人</p>	
<p>教育理念等に応じた教育課程の編成</p> <p>・複数の専門分野の授業を履修できるようなシステム、カリキュラムを編成する。</p>	<p>教育理念等に応じた教育課程の編成</p> <p>・平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」に採択された本学の取組である「学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト」を実施し、取りまとめを行う。</p>	<p>特色GP「学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト」を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組みの継続・推進として 特別講演「社会性を持ったものづくりの重要性」平成17年6月17日(金) 特別講演「木工手道具に込められた工夫と手仕事の重要性について」 特別講演「素材を切る－鋭利な刃物での切削と仕上がりの美しさ－」 ・教育成果等の視覚化として 展示写真パネルの作成(35件) ・教育環境の改善として 加工機械用手元照明の設置(13台) ・生活者意識等の実態調査として 視覚化工夫についての調査(東京:平成17年6月22日(水)~24日(金)) 海外調査(スウェーデン:平成17年9月18日(日)~27日(火)) ・地域連携基盤づくりのため データベースシステム構築(業者発注済み) 	
<p>・少人数教育を重視し、より実践的な能力・技能の育成を目指した授業形態や学習指導方法等を行う。このため、演習・実習形式の科目は少人数クラス編成とすると共に、他の授業についても、学生を複数のクラスに分けて行う複数クラス授業を取り入れる。</p>	<p>・演習・実習形式の科目は少人数クラス編成とすると共に、他の授業についても、学生を複数のクラスに分けて行う複数クラス授業を継続実施していく。</p>	<p>本科1年前期産業造形学科及び産業デザイン学科の専門教育科目「加工機械の安全操作」は28名と13名の2クラスに、専攻科1年前期産業造形専攻の専門科目「木材工芸制作法」は9名と9名の2クラスに分けて授業を行い、安全かつ充実した学習環境とした。</p> <p>本科2年前期産業造形学科の専門教育科目「挽物」9名と「木彫」4名について10名以下の少人数編成として充実した授業を行った。</p> <p>産業デザイン学科専門教育科目「C Iデザイン」、「デザインの進め方」、「総合デザイン実習」は少人数に分け、情報収集・分析・コンセプトメイキングまで行った。</p> <p>「英語の読み方」、「英語会話基礎」、「英語会話入門」、「英語購読基礎」、「基礎中国語A、B、C」、「中国語基礎研究」で、複数クラス授業を実施した。</p>	
<p>・実践的な能力・技能の教育の一環として、学生が授業の中で地域社会と係わることができる課題設定および履修システムを導入する。</p>	<p>・平成16年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択された本学の取組である『「炉端談義」方式による地場産業活性化授業 - 地域と一体となった授業計画・実施・評価委員会によるものづくり教育 -』を実施し、取りまとめを行う。</p>	<p>「炉端談義プロジェクト」として、「地域産業史」アンケート、「地場産杉を使用したインテリア・家具の提案」、「デザインの進め方」、「リビングデザイン」、「工芸品のお土産についてのデザインリサーチ」及び漆や金属の取組を実施している。</p> <p>9月末までに、計5回の「炉端談義」委員会を高岡短期大学で開催した。</p> <p>炉端談義シンポジウムを開催 日時:平成17年7月30日(土)14時00分~ 場所:高岡短期大学 講堂 第1部「炉端談義プロジェクト」取組報告 第2部パネルディスカッション テーマ「工芸都市『高岡』をキャンパスに！」 講師・中川 衛氏(金沢美術工芸大学教授,人間国宝(加賀象嵌)) ・植松豊行氏(松下電器産業(株),パナソニックデザイン社社長) ・野田雄一氏(富山ガラス造形研究所教授)</p> <p>第3部交流会 特色GP・現代GP合同シンポジウムを開催予定 予定日時:平成18年3月22日(水) 予定場所:富山大学高岡キャンパス</p>	
<p>適切な成績評価等の実施</p> <p>・シラバスの記載内容を充実させ、授業内容、進度などをわかりやすく示すとともに、全科目について、成績評価基準と学習達成目標を明確にし、学生に対し十分に周知する。また、定期的に、成績評価基準と学習達成目標が適切なものであるかどうかを点検・評価し、必要な改善を行う。</p>	<p>適切な成績評価等の実施</p> <p>・WEBで公開しているシラバスについて、教員ごとに記載項目や記述の内容などについて大きな差が出ないように、統一的な基準を定める。</p> <p>・成績評価検討小委員会作成の「成績評価改善のための提言」に基づく取組状況を把握して、更に改善を進める。</p>	<p>全学的にシラバス作成基準として「高岡短期大学シラバス作成上の留意事項」を作成した。特に「学生の学習目標(授業の到達目標)」と「評価の方法・割合」の項目については、適切な成績評価との関連から記載の趣旨や記入例を示すなどにより、シラバス(WEB含む)の記載内容の充実が図られた。</p> <p>複数クラス分けにより実施している本科基礎教育科目「英語の読み方」及び「英語での表現」において、共通テキストの開発、共通定期試験の実施など適切な成績評価となるよう改善を行った。</p>	

・卒業制作，卒業研究の評価については，客観性を確保するため，複数教官による判定などを行う。

・成績評価検討小委員会作成の「成績評価改善のための提言」に基づく取組状況を把握して，更に改善を進める。

複数クラス分けにより実施している本科基礎教育科目「英語の読み方」及び「英語での表現」において，共通テキストの開発，共通定期試験の実施など適切な成績評価となるよう改善を行った。

大学の教育研究等の質の向上
 1 教育に関する目標
 (3) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の配置について、多様な面で教員相互の融合を図るため、学科の枠を越えて定員を一元的に管理する。 ・ 教育に必要な施設・設備を整備し、教育環境の改善に努める。 ・ 教育の質の改善のため、教育内容及び方法の点検評価体制を整備し、FD (Faculty Development) を推進する。 ・ 学生に多様な教育機会を提供するよう努める。
------	---

中期計画	年度計画	計画の進行状況等	
<p>適切な教員の配置</p> <p>教員の補充については、学科の枠を越えてその都度全学的な観点から補充すべき専門分野を設定する。</p>	<p>教員の補充については、学科の枠を越えて、芸術文化学部を設置も視野に入れ、全学的な観点から補充すべき専門分野を設定する。</p>	<p>常勤職員の人事管理にあたっては、本年度も定員を設定し、定員の管理については、学科・課の枠を越えて学長が一元的な管理を行った。</p> <p>教員の欠員補充については、全学的観点から、役員会、教育研究評議会の議を経て1人の採用を決定した。</p> <p>事務職員の人事交流については、富山県内外の国立大学と次のように実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学外への転出者4人（筑波大学1人、静岡大学1人、富山大学2人） ・ 本学への転入者3人（福井大学1人、富山大学2人） 	
<p>教育に必要な施設・設備等の整備</p> <p>・ 実験・実習室等の施設並びに教材作成、情報教育、視聴覚教育等の教育関係設備及び学生生活関係設備を計画的に整備充実し、その効率的運用を図る。</p>	<p>教育に必要な施設・設備等の整備</p> <p>・ 北陸三県の国立大学法人をネットワークで結ぶ双方向遠隔授業システムによる遠隔授業の実施に向けて、検討を進める。</p> <p>・ 芸術文化学部の設置に向けて、教育研究スペース等の配分を決定するとともに、必要な施設整備を行う。</p>	<p>北陸地区国立大学において、学年暦、授業時間帯の統一化を検討。</p> <p>平成17年後期には、受講科目1科目、提供科目1科目を双方向遠隔授業で実施する予定。</p> <p>平成16年度に策定した新学部ゾーニング及び年度別改修計画を平成17年度の予算化に伴い決定した。</p> <p>年度別改修計画に基づき、改修工事（平成17年8～9月及び平成18年2～3月）（予定）を行い、実習室などを整備する。</p>	
<p>・ 図書館については、図書館機能を整備・充実し、利用者ニーズに対応したサービスの向上に努める。</p>	<p>・ (新)富山大学の設置に向けて、図書館組織や各キャンパスの図書館機能の連携などについて検討する。</p>	<p>・ 現在、3キャンパスでそれぞれ稼働中の図書館システムを今年度中に統一した図書館システムを導入することを決定して、平成17年9月末に入札を行い、平成18年3月稼働を予定している。</p> <p>・ 新図書館組織図を基に図書館機能の連携について、各業務ごとの検討を開始した。</p> <p>・ キャンパス間のシャトルバスの運行及び学内使送等に関する打合せで、図書の手送手段の確保についての打合せを行った。</p> <p>・ キャンパス間共通の図書館利用証（学生は学生証）のフォーマットを決定した。（学務系、情報系、図書系）</p> <p>・ 新学部のための図書資料の予算も措置され現在購入図書の選定リストを作成中。</p>	
<p>教育の質の改善</p> <p>・ 教育方法、教材開発などを研究開発するFDのための組織を立ち上げ、効果的な教育効果をあげる教育内容・方法を研究する。</p>	<p>教育の質の改善</p> <p>・ FDのための組織において、効果的な教育効果をあげる教育内容・方法を研究する。</p>	<p>教務委員会において、平成17年度前期も「学生による授業アンケート調査」を実施した。アンケート集計結果後には、各授業担当教員が、学生に対するコメントを作成し公表する予定である。</p>	

<p>・定期的に教育内容の検討を行い、その結果をフィードバックする仕組みをつくる。</p>	<p>・定期的に教育内容の検討を行い、その結果をフィードバックする。</p>	<p>複数クラス分けにより実施している本科基礎教育科目「英語の読み方」及び「英語での表現」において、共通テキストの開発、共通定期試験の実施など適切な成績評価となるよう改善を行った。</p>	
<p>・学生による授業評価を行うとともに、教員による相互評価について検討する。</p>	<p>・学生による授業評価を実施し、その結果を各教員に還元して、授業の改善向上を推進する。</p>	<p>・平成17年度前期科目（170科目）を対象に、授業アンケートを実施し、その結果を各教員に還元した。</p>	
<p>多様な教育機会の提供</p> <p>他大学との単位互換，企業でのインターンシップの実施及び地域社会と係わった教育など，多様な教育機会を学生に提供する。</p>	<p>多様な教育機会の提供</p> <p>・富山県インターンシップ推進協議会の活動を通して，専攻科1年生の就職体験に資する。</p> <p>・放送大学との単位互換及び富山県大学連携協議会教育連携部会で検討している単位互換について，積極的に参画する。</p>	<p>専攻科1年生（40人）を対象にガイダンスを実施し，インターンシップへの積極的な参加を呼びかけた。その結果，もの作り関係企業の参加が少ない中で，島津製作所にインターンシップ1名が参加できた。</p> <p>新入生オリエンテーションで，学生の勉学意欲を高め，教育の一層の充実を図る趣旨から，単位互換制度について説明している。その結果，平成17年度前期において，富山大学授業科目履修者数は人文学部3名，経済学部4名，放送大学履修者数は8名であった。また，富山県大学連携協議会教育連携部会で単位互換についての検討が進められている。</p>	

大学の教育研究等の質の向上
1 教育に関する目標
(4) 学生への支援に関する目標

中期目標	少人数教育のメリットを生かし、留学生を含む学生に対する学習支援，就職支援，生活相談及び課外活動支援を充実し，学生生活の向上に努める。
------	--

中期計画	年度計画	計画の進行状況等	
<p>学習支援への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員による「オフィスアワー」制度を実施し，学生からの修学・進路・生活上の問題などの相談や質問に応える。 	<p>学習支援への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員による「オフィスアワー」制度を実施し，学生からの修学・進路・生活上の問題などの相談や質問に応えると同時に，講義要項等で学生に周知する。 	<p>教員による「オフィスアワー」を実施し，時間帯の設定に際しては，教務委員会が学生の利便性を優先するよう全教員に周知徹底を図った。オフィスアワー一覧表は，ホームページに掲載するとともに，前期分は講義要項（冊子）に掲載した。後期分は，学生課掲示板にて周知予定。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・全体，学科別・コース別等きめ細かなオリエンテーションを実施し，学習支援を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に全体オリエンテーション，合宿研修オリエンテーション，学科別・コース別オリエンテーションを実施する。 	<p>学生生活が充実し，効果的な学習や良好な人間関係ができるよう，次のとおり各種オリエンテーションを実施した。特に1泊2日の合宿研修においては，教職員と学生間の親睦が図られたことと合せ，十分な履修指導を行うことにより勉学意欲の向上が図られた。</p> <p>（学内） 平成17年4月5日(火) 新入生全体オリエンテーション（学科） 専攻別オリエンテーション（専攻科1・2年合同） 合宿研修オリエンテーション（学科） サークル活動オリエンテーション（学科） 平成17年4月6日(水) 学科・履修コース別オリエンテーション</p> <p>（合宿研修） 平成17年4月6日(水) 学科・履修コース別オリエンテーション 平成17年4月7日(木) 学科・履修コース別オリエンテーション 平成17年4月8日(金) 新入生全体オリエンテーション（学生課関連） 学科コース別オリエンテーション（学科2年）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・交流協定を締結した外国の大学との交換留学生の受け入れについては，指導教員のほか学生によるチューターを配置するなどきめ細かな修学上及び生活上の指導助言などを行い，派遣については，事前指導を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受入留学生には，複数のチューターを付けて留学生生活の充実を図り，派遣については，事前に派遣大学の教育課程，生活環境及び生活費等についての説明会を実施する。 	<p>平成17年9月～平成18年5月に来日する交換留学生（4人：ラハティポリテクニク）には，数人のチューターを付け，本学の教育及び学生生活の充実を図る。</p> <p>また，チューターの任務などを掲載したマニュアル配布し，留学生とチューター間の良好な関係に寄与させる。</p> <p>詳細は，「資料編」の資料3（5頁）参照</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・職員の勤務時間割振を調整し，学生への窓口対応の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の勤務時間割振を調整し，学生への窓口対応の充実を図る。 	<p>就業規則に業務の都合により職員の勤務時間割り振りを変更できる旨の規定を設けており，学生課職員について，職員2名の勤務時間を通常より1時間繰り下げることにより，昼食時や授業終了時等の窓口対応を，勤務時間内に実施できるようにした。</p>	
<p>就職支援への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職を希望する学生全体の動向を把握するとともに，個々の学生 	<p>就職支援への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職説明会や進路説明会等を実施する。 	<p>次のとおり，就職説明会や進路説明会等を実施し，学生の就職や進学等についての心構えと士気を高めた。</p>	

<p>に対しきめ細かな就職活動支援を実施する。</p>		<p>就職説明会 (学科, 専攻科2年生対象:平成17年4月,227人参加) 保護者との進路懇談会(平成17年7月,58人参加) ものづくり工場見学会 (産業造形学科及び産業デザイン学科1年生対象:平成17年10月,定員40人)(予定) 進路説明会(学科,専攻科1年生及びその保護者対象:11月予定) 専攻科進路説明会(専攻科1年生対象:平成17年12月)(予定) 進路情報交流会(学科コース別に実施,平成18年1~2月)(予定) 美術系学生対象の就職セミナー (学科,専攻科1年生対象,平成18年1月)(予定)</p>	
	<p>・学科進路担当教員を中心に,進路担当教員以外の教員も,就職先情報の提供など,相互に連携して就職を支援する。</p>	<p>・採用情報の提供 大学に届いた求人案内については,進路資料室に配置する他,各進路委員にも送付し各学科・コース単位で学生が閲覧できる体制となっている。 また,各指導教員が独自の立場で知り得た求人情報や,進路担当教員以外の各教員のネットワークによる情報についても,所属進路委員及び学生課を通して配信した。 ・履歴書・エントリーシート等の添削及び面接指導 各学科・コースで進路委員と指導教員が連携を図り,履歴書・エントリーシート・編入学志望理由書等の添削や面接指導を実施した。 ・資格の取得 「国内旅行業務取扱主任者資格」,「簿記検定」,「日本語漢字能力検定」,「日本語文書処理技能検定(ワープロ検定)」,「秘書検定」など,就職に関する資格の取得を奨励し,受験情報の提供を行った。 ・進路委員と指導教員が連携を図り,履歴書,エントリーシート等の添削や面接指導を実施している。 東京シンポジウムにおいて将来の就職先となり得る関係者と積極的に情報交換した。</p>	
<p>・毎年の就職支援のための基礎的データを分析し,就職先の開拓に役立たせるなど,就職支援システムの整備を図る。</p>		<p>(新)富山大学で実施するため,平成17年度の計画はないが,学生の就職状況や,就職先名,業種,採用された職種などの基礎的なデータを作成している。</p>	
<p>・企業等からの情報収集や教員等による企業訪問活動等により,就職活動支援の充実を図る。</p>	<p>・就職先開拓のため,教員による企業訪問を実施し,就職希望者について就職率90%台を確保する。</p>	<p>年間を通しての企業訪問は,進路委員の他各教員の協力により,機会を問わず随時実施しており,これまでも求人案内を確保している。 研究,技術指導のために関係を持った企業に,求人をお願いして求人にも努力している。</p>	
<p>生活支援への対応 ・カウンセラーを配置し,学生の心身の健康上等に関する相談体制の充実を図るとともに,学生生活の手引書を作成するなど,学生生活の充実を図る。</p>	<p>生活支援への対応 ・カウンセラーの対応時間帯を増やす。</p>	<p>平成16年度のカウンセリング実施時間(242時間)を平成17年度には54時間増加し,計74日,296時間のカウンセリングを計画しており,相談者数は8月8日現在延べ81人である。 実施日は原則として,1日につき4時間とし以下のように実施した。 ・毎週木曜日,13時30分~17時30分 ・第1,第2金曜日,14時00分~18時00分 詳細は,「資料編」の資料4(21頁)参照</p>	
	<p>・緊急時対応用の冊子「EMERGENCY」を全学生に配布する。</p>	<p>入学式当日に配布した。 詳細は,「資料編」の資料5(23頁)参照</p>	
<p>・保健管理センター医師及び看護師による健康相談や栄養相談を実施する。</p>	<p>・特定の日時を設定し,健康相談及び栄養相談を実施する。</p>	<p>健康相談を新入生全員の面接を行う方法で6月に実施した。 ・セミナー等を次のとおり実施した。 小セミナー 平成17年4月「あなたはアルコールに強い?弱い?」 参加者 47名 平成17年5月「どうしよう・・・。一人暮らしの食生活」 参加者 23名 平成17年6月「ここからだにやさしいセルフケア,マンスリービクスの実践」 参加者 5名 栄養相談 平成17年10月29日(土)(予定) 栄養セミナー(調理実習・講義を含む。) 平成17年6月 1回 参加者19名</p>	

		平成17年11月 2回(予定)	
・セクシャルハラスメントについて、相談員を配置し防止を図るとともに、防止に係る全学的な意識の高揚を図る。	・セクハラ相談員は、ホームページ及び「EMERGENCY」に記載する。	ホームページ及び「EMERGENCY」に記載した。 詳細は、「資料編」の資料5(23頁)参照	
・学生の通学手段確保のため、地域社会と連携しつつ、改善策を検討する。	・(新)富山大学の設置に向けて、学生のキャンパス間の移動方法などについて検討する。	(新)富山大学創設のための新大学創設準備推進委員会に設置した管理運営部会において、キャンパス間の移動手段について検討を行った結果、学生、教職員の利便や国会審議等を踏まえ、平成18年4月からキャンパス間を結ぶシャトルバスを運行することとした。 なお、運行の詳細については、今後検討を行う。	
・経済的理由による学業継続困難者(成績優秀者)については、授業料等の免除制度を実施し支援する。	・授業料の免除制度を実施する。	平成17年度前期分として、31名を免除した。 内訳：全額免除27名、半額免除4名	
	・授業料等の免除は、学生募集要項や学生便覧に制度のあらましを記載し、学生への周知を図る。	学生募集要項、学生便覧(ホームページにも掲載)に掲載したほか、授業料免除説明会を開催するに当たり、掲示及び学内放送にて説明会開催の周知を図った。	
・指導教員、関係機関等と連携し、各種奨学金制度等の適切な情報提供や指導を行うなど、学生に対する支援に努める。	・指導教員、関係機関等と連携し、各種奨学金制度等の適切な情報提供や指導を行う。	国、地方公共団体その他奨学金提供団体からの情報を学生課掲示板に掲示した。	
課外活動支援への対応	課外活動支援への対応	(新)富山大学で実施するため、平成17年度の計画はない。	
・校内交流スペースの整備充実を図り、学生間の交流の推進に努める。			
・学生のサークル活動については、各種支援やサークル顧問会議、サークルリーダー研修会等を実施し一層の活発化に努める。	・大会参加への支援を行う。	サークル活動に必要な用具及び消耗品を購入し配布した。 てつそん部のプレ大会開催に当たり大学備品及び建物の使用に当たり配慮した。	
	・サークル顧問会議を定期的に行う。	秋以降開催の予定。	

大学の教育研究等の質の向上
 2 研究に関する目標
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標	高岡短期大学は、開学当初から、多様な分野の研究者に加え民間企業等から専門知識を有する実務経験者、工芸作家等を登用している。このような教員構成を活用し、地域社会に広く貢献する研究・制作を推進する。
------	---

中期計画	年度計画	計画の進行状況等
<p>目指すべき研究・制作の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統工芸と現代文化・産業との調和や融合につながる研究・制作 ・地域社会の活性化や産業・芸術・文化の発展に寄与する実践的な研究 	<p>「工芸都市高岡 伝統と革新」展を本学、高岡市、地元産業界の共催で開催する。</p>	<p>・「工芸都市高岡 伝統と革新」展 本学の教員が高岡の地場産業界や伝統職人の方々とコラボレーションすることにより、大学の持つ「知」と地域が持つ「技」を融合させた新規制作作品の展覧会を開催している。 場 所：高岡市美術館 期 間：平成17年9月16日（金）から平成17年10月16日（日） 見学者数：約2,200人 富山・高岡地域の発展を目指し、外在住で活躍されている芸術家等を招いて、芸術文化のあり方や日本文化の発信について考える記念フォーラムを開催した。 場 所：ウイング・ウイング高岡 開催日：平成17年9月30日（金） テーマ：「世界が注目する日本の芸術文化」 参加者数：約330人</p>
<p>成果の社会への還元方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野に応じ、研究・制作の成果を学会、展覧会、紀要、大学ホームページその他に掲載し公表する。 	<p>成果の社会への還元方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野に応じ、研究・制作の成果を学会、展覧会、紀要、大学ホームページその他に掲載し公表する。 ・本学教員の研究成果等を一堂に公開する「特別展」を実施する。 	<p>教員および学生の展覧会出品・開催情報（個展の開催を含む）を本学のホームページに掲載するため教員に情報の提供を求め、公開した。（公開件数13件） 芸術文化学部の紀要（創刊号）の編集作業を行う。 研究者紹介をホームページに掲載している。</p> <p>地域の方々に対し高岡短期大学の歩みや活動の集大成を紹介する「高岡短期大学展」を開催した。 展示内容：教員の成果発表パネル・作品等の展示、大学開放センターの沿革、歴代の関係事業のポスター等 場 所：高岡短期大学 期 間：平成17年9月17日（土）から平成17年9月30日（金） 見学者数：約2,200人</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の公的機関、産業界の課題に対する助言・コンサルテーション活動、並びにコンペの審査員等を通じて地域社会に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の公的機関、産業界の課題に対する助言・コンサルテーション活動、並びにコンペの審査員等を通じて地域社会に貢献する。 	<p>教職員が県、市など公的機関の各種委員会委員、審査員、研修会講師等に委嘱されており、平成17年度の兼業従事件数は135件であり、県、市関係の兼業従事件数は47件であった。 教職員の兼業実施状況は、「資料編」の資料6（25頁）参照</p> <p>コンサルテーションとして、次のような相談があり、実施に結びつけた。 附属病院の国際交流事業の記念品制作について 附属病院の功労者表彰の記念品制作について 成人式のパンフレットのデザインについて 道の駅のパブリックアート等の制作について</p>

電気製品のデザインについて
3次元5軸制御レーザー加工機の操作盤のデザインについて
附属病院の受付パネル等のデザインについて

大学の教育研究等の質の向上
 2 研究に関する目標
 (2) 研究実施体制等の整備に関する目標

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の配置について、多様な面で教員相互の融合を図るため、学科の枠を越えて定員を一元的に管理する。 ・ 研究・制作環境については、研究活動の基盤となる研究・制作室、実験室、図書館等についての整備充実に努める。 ・ 教員の研究・制作の質向上については、教育や地域社会への貢献度等も含めて評価するシステムの整備に努める。
------	---

中期計画	年度計画	計画の進行状況等	
<p>適切な研究者等の配置に関する具体的方策</p> <p>教員の補充については、学科の枠を越えてその都度全学的な観点から補充すべき専門分野を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の補充については、学科の枠を越えて、芸術文化学部の設定も視野に入れ、全学的な観点から補充すべき専門分野を設定する。 	<p>教員の補充に関して、選考方法は全学的観点から、今後必用とされる専門分野並びに対応しうる人物の選考を行うこととし、役員会、教育研究評議会の議を経て採用を決定した。</p>	
<p>研究・制作に必要な施設・設備等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の整備・利用状況に関する点検調査を実施し、教育研究・制作スペース等の適正化を推進するとともに計画的に整備充実に努める。 ・ なお、研究・制作に必要な設備についてもその充実に努める。 	<p>研究・制作に必要な施設・設備等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術文化学部の設定に向けて、教育研究スペース等の配分を決定するとともに、必要な施設整備を行う。 	<p>平成16年度に策定した新学部ゾーニング及び年度別改修計画を平成17年度の予算化に伴い決定した。</p> <p>年度別改修計画に基づき、改修工事（平成17年8～9月及び平成18年2～3月（予定））を行い、実習室などを整備する。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館については、図書館機能を整備・充実し、利用者ニーズに対応したサービスの向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (新)富山大学の設置に向けて、図書館組織や各キャンパスの図書館機能の連携などについて検討する。 	<p>現在、3キャンパスでそれぞれ稼働中の図書館システムを今年度中に統一した図書館システムを導入することを決定して、平成18年3月稼働を予定している。</p> <p>新図書館組織図を基に図書館機能の連携について、各業務ごとの検討を開始した。</p> <p>キャンパス間のシャトルバスの運行及び学内使送等に関する打合せで、図書運送手段の確保についての打合せを行った。</p> <p>キャンパス間共通の図書館利用証（学生は学生証）のフォーマットを決定した。（学務系、情報系、図書系）</p> <p>新学部のための図書資料の予算も措置され現在購入図書の選定リストを作成中。</p>	
<p>研究・制作の質の向上</p> <p>専門分野ごとに、研究・制作だけでなく教育や地域社会に対する貢献度等も含めた点検・評価を実施し、その評価結果を研究資金の配分や人事に反映させる。</p>	<p>研究・制作の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画評価委員会において、教員の適切な評価方法の検討を行う。 	<p>計画評価委員会において、教員の評価方法等について、既に教員の個人評価を実施した国立大学等の例を参考に、個人評価の目的、評価項目などを中心に、基本的な考え方について検討を行った。</p> <p>この結果、教員の評価について個人評価実施の基本的な考え方を次のとおり決定した。ただし、その実施時期については、平成17年10月に再編・統合される(新)富山大学における全学的な審議を経たうえで実施することとした。</p> <p>評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育に関する活動 研究に関する活動 社会（地域）貢献に関する活動 大学運営に関する活動 	

	<p>・教員の研究・制作について、学会・研究会や各種公募展等への積極的な投稿、発表、出品など、学外者による評価を促進する。</p>	<p>教育研究活動を促進するため、研究経費にインセンティブ配分を第1次（平成17年9月配分）と第2次（平成17年12月配分（予定））で実施する。 教育研究インセンティブ経費 該当教員に対して1人当たり5万円を配分した。 ・科学研究費補助金の新規応募者（平成17年12月配分予定） ・教育GP検討委員（11人） ・公募展入選者のうち助教授、講師、助手（平成17年12月配分予定） ・学生の投票により選出されたベストティーチャー（5人） ・プロジェクト授業の申請代表者（3人） 公開講座インセンティブ経費 公開講座・公開授業について開設講座・授業数、開設時間数、受講者数及び受講率等についてポイント制の評価を行い、主任担当教員等に対してポイントに応じて総額160万円を配分する。（平成17年12月配分予定） 新学部の設立に合わせて、「創設記念展」、「特別展」への出展・発表により、地域の方による評価を促進する予定である。</p>	
<p>知的財産の活用等</p> <p>知的財産に関する制度を教員に対し十分に周知し、大学及び教員が所有する知的財産について、ホームページ等を通じて地域に周知する。</p>	<p>知的財産の活用等</p> <p>・教員の所有する知的財産をホームページに掲載し広報する。</p>	<p>平成17年7月29日（金） 「工芸都市高岡 伝統と革新」展関係者を対象に知財説明会を開催した。 平成17年9月15日（木） 権利保護の方策として(社)日本デザイン保護協会の「創作デザインの寄託」への申請を教員に促し、1件申請した。教員へ知的財産への意識付けをすることができた。 平成17年12月上旬 特許セミナーを開催する予定。 富山県知的所有権センターのアドバイザーによるセミナーも開催予定。</p>	

大学の教育研究等の質の向上
 3 その他の目標
 (1) 社会との連携, 国際交流等に関する目標

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域貢献の柱として、「地域住民への支援・協力」と「地域との連携協力」を挙げ、地域社会に対し、大学開放の事業を全学的に推進する。 ・ 国際交流については、外国の大学との学生交流, 研究者交流, 展示交流等を推進する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の進行状況等
<p>地域住民への支援・協力</p> <p>・ 地域のニーズを調査し、公開講座, 講演会等の生涯学習関係事業の実施方法等の改善に資するとともに、大学開放センターを中心とした大学開放事業の推進に努める。</p>	<p>地域住民への支援・協力</p> <p>・ 地域ニーズ調査結果の分析を行い、今後の地域住民への支援・協力について検討する。</p>	<p>平成17年6月末産学連携に関するニーズ調査報告書を商工会議所に届け、内容について説明した。平成17年7月商工会議所の本学視察研修の際、ニーズ調査報告書の結果について説明した。</p> <p>平成16年度におこなった高岡市の全小・中学校(児童・生徒約6千人)に対するアンケート結果の分析を行った。本アンケート結果を踏まえて、平成17年度大学等開放推進事業(Jr.サイエンス事業)に応募し採択となり、下記のとおり実施した。</p> <p>講座名:「金属をとかして みがいて 新発見!!」 開催時期:平成17年8月8日(月)~9日(火) 参加者:小学生53名,小中学校教諭等20名。</p> <p>平成17年10月には「ものづくり」に関する小・中・高・大連携のために市内小中学校及び地元高校の教員との座談会を開催する。</p>
<p>・ 本学の教育研究の成果を地域社会に示すため、各種展示の公開や卒業・修了制作展を毎年開催する。</p>	<p>・ 本学の教育研究の成果を地域社会に示すため、各種展示公開や卒業・修了制作展を開催する。</p>	<p>・ 次のとおり各種作品展を学内外でにおいて20回開催する。</p> <p>金屋町「さまのこ」フェスタ(平成17年4月:高岡市金屋町) 「地場産杉を使用したインテリア・家具の提案」(平成17年6~8月:氷見市海浜植物園,本学,氷見クリック,ウイングウイング高岡) 高岡短期大学の紹介(平成17年6月:ウイングウイング高岡) 日本-フィンランド響きあう心展(平成17年6~7月:本学) 「洗心苑」のための家具制作作品展(平成17年7月:本学) 現代GP「炉端談義プロジェクト」展(平成17年7~8月:本学) ラハティポリテクニクとの学生作品相互交流展(平成17年9月:ラハティポリテクニク(フィンランド)) 特別展「高岡短期大学展」(平成17年9月:本学) 産業デザイン学科学生作品展(ビジュアル基礎表現) (平成17年10月:本学)(予定) 第21回金工展(平成17年10月:本学)(予定) 第21回樹木との語り展(平成17年10月:本学)(予定) 第19回漆工展(平成17年10月:本学)(予定) さまのこアートインよっさ(平成17年10月:高岡市吉久)(予定) 第10回三造展(平成17年10月:本学)(予定) 公開講座受講者作品展(平成17年10月:本学)(予定) 産業デザイン学科学生作品展(CIデザイン,製品デザイン,CG演習) (平成17年12月:本学)(予定) 産業デザイン学科学生作品展(デザインの進め方) (平成18年1月:本学)(予定) 産業造形学科学生作品展(CG入門,CG演習) (平成18年1月:本学)(予定) 産業デザイン学科学生作品展(新聞広告評価展示) (平成18年3月:本学)(予定) 高岡短期大学卒業・修了制作展 (平成18年2月:富山県民会館美術館,平成18年3月:本学)(予定)</p>

		<p>詳細は、「資料編」の資料1(1頁)参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「工芸都市高岡 伝統と革新」展 本学の教員が高岡の地場産業界や伝統職人の方々とコラボレーションすることにより、大学の持つ「知」と地域が持つ「技」を融合させた新規制作作品の展示会を開催している。 場 所：高岡市美術館 期 間：平成17年9月16日(金)から平成17年10月16日(日) 見学者数：約2,200人 富山・高岡地域の発展を目指し、海外在住で活躍されている芸術家等を招いて、芸術文化のあり方や日本文化の発信について考える記念フォーラムを開催した。 場 所：ウイング・ウイング高岡 開催日：平成17年9月30日(金) テーマ：「世界が目撃する日本の芸術文化」 参加者数：約330人 	
<p>・地域住民に対する公開講座の開設及び授業の公開の推進を図る。</p>	<p>・地域住民に対して公開講座として「一般講座」の他「実務能力開発講座」などの公開講座を23講座開設する。</p>	<p>公開講座を23講座開設した。 平成17年9月現在、20講座を実施し、受講者数は、募集定員314人に対し348人となった。 詳細は、「資料編」の資料7(31頁)参照</p>	
<p>・公開講座については、全教員の2分の1程度が担当する。</p>	<p>・公開授業実施を促進するため、インセンティブ制度を実施する。</p>	<p>公開講座・公開授業について開設講座・授業数、開設時間数、受講者数及び受講率等についてポイント制の評価を行い、主任担当教員等に対してポイントに応じて総額160万円を配分する。(平成17年12月配分予定)</p>	
<p>・本学の全授業の2分の1以上を公開授業として地域住民に提供する。</p>	<p>・187科目の本学授業を地域住民に開放し、学生と一緒に受講する機会を提供する「公開授業」として実施する。</p>	<p>前期106科目、後期82科目を「公開授業」として開設し、前期22名の受講者があった。 詳細は、「資料編」の資料8(33頁)参照</p>	
	<p>・公開授業実施を促進するため、インセンティブ制度を実施する。</p>	<p>公開講座・公開授業について開設講座・授業数、開設時間数、受講者数及び受講率等についてポイント制の評価を行い、主任担当教員等に対してポイントに応じて総額160万円を配分する。(平成17年12月配分予定)</p>	
<p>・高等学校の生徒に大学レベルの教育を提供するため、高等学校の生徒を対象とする講座の開設、高等学校を訪れての専門分野の学問の紹介や講義の実施に努める。</p>	<p>・高等学校の生徒に大学レベルの教育を提供するため、以下のことを実施する。 ア 公開講座のうち高等学校の生徒を対象とする講座を2講座開設 イ 高等学校を訪れての専門分野に関する学問の紹介や講義</p>	<p>ア 小杉高等学校生を対象とした1講座を開設した。 「圧迫鋳造による銀の指輪作り」 平成17年5月～6月(全4回)受講者：11名 富山北部高等学校生を対象とした1講座を開設した。 「デザイン」 平成17年7月(全5回)受講者：10名</p>	
<p>・「ものづくり」への関心を高めるため、小・中学生を対象に、ものをつくる喜びを体感できるような「ものづくり講座」を毎年開講する。</p>	<p>・公開講座のうち「ものづくり」への関心を高めるため、小・中学生を対象に、「ものづくり講座」を開講する。</p>	<p>平成17年度大学等開放推進事業(Jr.サイエンス事業)として「金属をとかして みがいて 新発見!!」を下記のとおり実施した。 講座名：「金属をとかして みがいて 新発見!!」 開催時期：平成17年8月8日(月)～9日(火) 参加者：小学生53名、小中学校教諭等20名。 高岡市が構造改革特区構想として「ものづくり・デザイン科」の科目を設けて「ものづくり教育」に取り組んでいることから、高岡市教育委員会職員、小・中学校教員にも、子供たちと同時に受講してもらい、次年度以降の指導の一助となるよう配慮した。 また、志貴野中学校及び横田小学校からの要請に応じて、ものづくりの教授方法を教えるために教員を派遣した。 平成17年10月には「ものづくり」に関する小・中・高・大連携のために市内小中学校及び地元高校の教員との座談会を開催予定。</p>	
<p>・学生が教育の中で社会や産業と係わり、実践的な能力や技能を修得でき、更に、地域の活性化にも寄与できる授業などを実施する。</p>	<p>・学生の富山県デザイン協会への参加を奨励し、県内企業と共同活動を行う。</p>	<p>・現代GP「『炉端談義』方式による地場産業活性化授業」の一環として、地域の企業と産学連携授業を行い交流し、学生作品を、「地場産杉を使用したインテリア家具」として連携企業等へ提案した。</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> ・富山県デザイン協会への参加は、昨年度38名であったが、今年度は54名と増え、80%以上の学生が入会している。 ・プロジェクト授業としてネクタイのデザイン、和紙あんどんの制作を行った。 ・G P 関連の展示会、講演を通じ県内企業との共同活動を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・体育施設、図書館、講堂等の大学施設を開放し、地域住民への支援を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育施設、図書館、講堂等の大学施設を開放する。 	<p>地域住民等には、大学の行事あるいは学生の授業・クラブ活動に支障のない日時に積極的に開放している。</p> <p>また、利用者へのサービス向上のため体育施設については本学ホームページにて、予約状況及び使用料金の情報を発信している。</p> <p>体育施設等の開放実績は、「資料編」の資料9（39頁）参照</p>
<p>地域との連携・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公的機関の委員会・審議会等への教員の参画を積極的に推進するよう努める。 	<p>地域との連携・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公的機関の委員会・審議会等への教員の参画については、勤務時間内に実施できるよう兼業許可の範囲が広がったことについて、周知徹底する。 	<p>平成17年度においても、国又は地方公共団体等の公共機関の委員会委員等への教員の参画については、無報酬（適正な範囲で支給される交通費を含む）の場合には、勤務時間内に従事させている。平成17年度の兼業従事件数は135件であり、内47件は勤務時間内での従事を許可した。</p> <p>教職員の兼業実施状況は、「資料編」の資料5（23頁）参照</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献に関し、自治体と一体となって取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県、高岡市及び本学で地域振興に取り組む事業を統括し推進するために組織された「富山コラボレーション推進連絡協議会」を活用し、自治体と一体となって地域貢献に取り組む。 	<p>今年度も引き続き「富山コラボレーション推進連絡協議会」の地域貢献事業として「インキュベーション教育事業」を実施している。</p> <p>同事業は、起業や作家・デザイナーとしての独立を目指す本学の学生・卒業生に対して、作業場として高岡市のインキュベーション施設を借り上げ、本学の3学科の教員がプロジェクトチームを結成し、技術面、デザイン面及び経営面でのサポートを行うものである。</p> <p>今年度は、富山医科薬科大学附属病院の国際交流事業の記念品作成を行い、高岡市の「道の駅」パブリックアート等の制作に参画することとなった。</p> <p>また、本学の教員が高岡の地場産業界や伝統職人の方々とコラボレーションすることにより、大学の持つ「知」と地域が持つ「技」を融合させた新規制作作品の展覧会「工芸都市高岡 伝統と工芸」展を開催した。</p> <p>場 所：高岡市美術館 期 間：平成17年9月16日（金）～平成17年10月16日（日） 見学者数：約2,200人</p> <p>富山・高岡の発展を目指す、海外在住で活躍されている芸術家等を招いて、芸術文化のあり方や日本文化の発信について考える記念フォーラムを開催した。</p> <p>場 所：ウイング・ウイング高岡 開催日：平成17年9月30日（金） テーマ：「世界が目撃する日本の芸術文化」 参加者数：約330人</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治体等からの要望に応じて、他の生涯学習機関との連携講座、地域情報化支援等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治体等からの要望に応じて、他の生涯学習機関との連携公開講座、地域情報化支援等を行う。 	<p>20件の公開講座が富山県民カレッジの認定講座として、単位を交付している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズと大学のシーズを結びつけるため、自治体、商工会議所等並びに学内教員に対し、産学官連携に関する調査を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「産学連携に関するニーズ調査」の結果を商工会議所に提供し情報を共有するとともに、今後の産学官連携に関して検討を行う。 	<p>平成17年6月末産学連携に関するニーズ調査報告書を商工会議所に届け、内容について説明した。平成17年7月商工会議所の本学視察研修の際、ニーズ調査報告書の結果について説明した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・地場産業の発展に資するため、地域の公立研究施設等との連携に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産業の発展に資するため、地域の研究施設等と連携し、技術指導等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・井波木彫刻工芸高等職業訓練校、富山ガラス造形研究所及び高岡銅器振興協同組合に技術指導等のため教員を派遣している。 ・高岡市デザイン・工芸センターをはじめ、地場産学関連の協同組合等が主催する講演会、研修会や、井波彫刻工芸高等職業訓練校等に講師を派遣し技術指導を行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携を推進するため、産業界等に対し、共同研究、受託研究、コンサルテーション等の制度及び取り組み状況並びに研究者のシーズの紹介を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携を推進するため、産業界等に対し以下のことについて引き続き情報提供していく。 ア 共同研究、受託研究、コンサルテーション等の制度 	<p>ア 共同研究、受託研究及びコンサルテーション等の制度については、本学ホームページの「大学開放活動」に制度の概要を掲載している。</p>

	イ 上記の取り組み状況 ウ 研究者シーズ	イ 3大学統合後に上記制度についての公開方法を，編集中。 ウ 3大学統合後に発行する研究者情報のデータを取りまとめ，CD-ROMを作成した。このデータは，(新)富山大学のホームページで公開することとした。	
・学生(卒業生を含む)に対して，インキュベーター機能を持ち，かつ，地域のニーズとの連携・融合を实践する場を設置し，インキュベーション教育の充実を図る。	・学生(卒業生を含む)に対して，インキュベーター機能を持ち，かつ，地域のニーズとの連携・融合を实践する場として市の施設を借り上げ，インキュベーション教育を引き続き行っていく。	高岡市創業者支援センターに作業場を構え，インキュベーション教育事業を実施。 現在のところは，外部からの依頼を受け，学生が，教員スタッフの技術面，デザイン面，マーケティング等に関する指導を得て活動しており，富山医科大学からの依頼による記念品，高岡市からの依頼による道の駅のパブリックアート及び成人式のパンフレットデザイン等の依頼を受け制作等を行っている。	
地域の大学との連携 ・「富山県大学連携協議会」を通じて，県内の高等教育機関の相互協力により，教育研究等の連携の推進に努める。	地域の大学との連携 富山県内大学等10校が連携し，FD研修会及び公開講座を実施する。	平成17年8月25日(木)に富山市において，「平成17年度富山県大学連携協議会FD研修会」が実施され，本学からも学長及び各学科の教員計10名が参加した。 また，富山県大学連携協議会教育連携部会において，平成17年度にテーマ「還日本海地域から見つめる海との共生」と題し公開講座を平成17年10月～11月に4回，計8科目を実施することとなった。	
国際交流に関する方策 ・交流協定を締結している外国の大学(以下「協定校」という。)との学生の受入・派遣を推進する。	国際交流に関する方策 ・交流協定を締結している外国の大学(以下「協定校」という。)との学生の受入・派遣を実施する。	本年度，ラハティポリテクニクに産業造形学科1名，専攻科産業造形専攻2名の交換留学生を派遣し，ラハティポリテクニクからは4名を受入れることとした。	
・協定校における学生の語学研修を毎年実施し，その充実を図る。	・協定校における学生の語学研修を実施する。	大連外国語学院に語学研修を実施し，ビジネス学科14名が参加した。 (期間：平成17年8月15日(月)～8月31日(水)) ウエスタンオレゴン大学の語学研修には，ビジネス学科13名が参加した。 (期間：平成17年8月17日(水)～9月12日(月))	
・協定校との国際交流に当たり，地域の関係団体等と連携・協力しつつ，学生交流，研究者交流や展示交流などの促進を図る。	・協定校との国際交流に当たり，地域の関係団体等と連携・協力しつつ，学生交流や研究者交流を行う。	ラハティポリテクニク(フィンランド)で学生作品展を開催するに当たり，高岡フィンランド協会へ呼びかけ，同協会が現地に赴き視察することとなった。 また，同協会と共催で「日本-フィンランド 響きあう心展」を開催した。 職員が，高岡フィンランド協会理事を勤めるとともに高岡市国際交流協会会員として，地域の関係団体との連携・協力体制の強化に努めるとともに，留学生が参加する各種のイベントの企画・実施にも広く関わっている。	

大学の教育研究等の質の向上に関する特記事項

平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の採択について

本学は、文部科学省の平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の募集に対し、積極的に応募するため、全学的な検討体制で取り組んだ。

この結果、本学から申請した「非言語と言語の融合による地域国際化教育 - 世界に開かれた高岡まちづくり - 」が採択された。

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」には、全国の国公立大学等から509件の応募があり、本学を含め84件が採択された。

なお、本学は平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」に、「学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト」が、平成16年度「現代的教育ニーズ取組プログラム」に「『炉端談義』方式による地場産業活性化授業 - 地域と一体となった授業計画・実施・評価委員会によるものづくり教育 - 」が採択されており、今回採択された分は、3件目のGPの採択となった。

1 取組の概要

採択された取組の概要は次のとおり

平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」

- テーマ名 : 地域活性化への貢献（地域密着型）
- 取組名称 : 非言語と言語の融合による地域国際化教育 - 世界に開かれた高岡まちづくり -
- 取組担当者 : 地域ビジネス学科 教授 渡邊 康洋

（取組の概要）

これからの地域社会は、国際化・外客誘致に向けて具体的に行動することが求められている。本学はこれまで地元高岡市と密着した教育を行ってきたが、本取組では、関連授業に地域組織・住民の参加を求め、世界に開かれた教材を導入することにより、この新たな地域ニーズに応えるものである。

具体的には、これまで別学科、別区分で実施されてきた授業群を「国際化」という共通テーマで結んだ融合教育で実施し、学生の国際感覚を育むものである。特に授業では地域に埋もれた文化資源を発掘した後、在住外国人や市担当部署との共同作業により、グリーンマップの作成を通じて、地域情報の国際的発信を可能にする。

さらに地元ボランティアガイドの指導の下で、英語・中国語による観光資源の紹介体験をすることにより、言語・非言語総合的コミュニケーション能力を育成する。こうした本取組は、高岡市を真に世界に開かれた都市へと発展させ、また国際的人材養成により地域国際化に貢献するものである。

2 外部資金の獲得

平成16年度の「特色ある大学教育支援プログラム」に1件、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に1件が採択され、平成17年度の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に1件が採択された。これにより、平成16年度・17年度・18年度にわたって補助金が交付されることとなり、理工系の大学ではない本学にとって、貴重な外部資金獲得となっている。

補助金交付額（千円）

取組名	平成16年度	平成17年度	平成18年度
学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト	15,500	15,500	
「炉端談義」方式による地場産業活性化授業	15,000	13,500	
非言語と言語の融合による地域国際化教育		10,000	10,000
合計	30,500	39,000	10,000

1 業務運営の改善及び効率化
運営体制の改善に関する目標

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学長がリーダーシップを発揮し、効果的・機動的な大学運営を遂行できる体制を整備する。 ・ 評価結果に応じた学内資源配分を実施するためにその体制の構築を図る。
------	--

中期計画	年度計画	進行状況	判断理由（実施状況等）	ウェイト
効果的・機動的な運営 ・ 教学と経営の双方の最終責任者である学長を補佐するため、その体制を整備し、学長の執行機能の強化を図る。	効果的・機動的な運営 ・ 再編・統合担当学長補佐2名、大学間連携協力担当学長補佐1名、芸術文化学部広報担当学長補佐1名、教育G P担当学長補佐1名を任命し、各担当事項について学長を補佐する。		次のとおり学長補佐を置き、それぞれの業務について、学長を補佐した。 再編・統合担当学長補佐 2名 富山県内3大学の再編・統合協議や新学部設置の準備作業などを担当 大学間連携協力担当学長補佐 1名 富山県内の大学間連携及び北陸地区の大学間連携を担当 教育G P担当学長補佐 1名 文部科学省の教育G Pに選ばれた本学の取組の実施を担当 芸術文化学部広報担当学長補佐 1名 富山県内3大学の再編・統合により設置する新学部の広報を担当	1
・ 大学運営の目標、計画、評価に係る組織を整備する。	・ 芸術文化学部の設置に向けて、学部としての目標、計画、自己点検・評価などに係る組織について検討する。		芸術文化学部設置準備委員会で、検討のうえ、芸術文化学部に学部運営委員会を設置し、芸術文化学部の計画・評価を実施することとした。 学部運営委員会の構成 学部長、副学部長、学部長補佐、評議員、造形デザイン会議及び造形文化会議並びに、プロジェクト推進会議の各議長、学部長が指名する者、事務部長	1
・ 経営協議会と教育研究評議会の役割分担を踏まえつつ、経営と教学の双方にまたがる審議事項については、適宜合同委員会の開催に努める。			高岡短期大学として、平成17年度の計画はない。	
・ 教授会の審議事項等については、真に必要な教育研究事項に精選する。	・ 芸術文化学部の設置に向けて、学部の教授会としての運営方法や審議事項等について検討する。		芸術文化学部教授会の審議事項の内、人事等に関する事項は、人事教授会で審議する。また学校教育法施行規則第66条の2の規定に基づく代議員会等として、学部運営委員会を設置することとした。 学部運営委員会の構成 学部長、副学部長、学部長補佐、評議員、造形デザイン会議及び造形文化会議並びに、プロジェクト推進会議の各議長、学部長が指名する者、事務部長	1
・ 学内委員会の運営については、適宜多数決原理を採用し、意思決定の迅速化に努める。	・ 意思決定の権限・責任の所在を明確にするとともに、決定事項の周知を迅速化する。		学内委員会の議事要旨については、決定事項等の周知迅速化のため、次回以降の委員会で議事要旨の確認がなされる前に、案を作成した段階で学内専用の議事要旨掲載ホームページに掲載することとしている。	1
・ 学内の各種委員会の在り方について点検・見直しを行い、より効率的・機能的な運営の推進に努め	・ 芸術文化学部設置に向けて、芸術文化学部と高岡短期大学の組織を効果的かつ機動的に運営するた		芸術文化学部教授会、学部運営委員会を設置する他、各種委員会を設置することとした。また、教育組織として教育部（造形デザイン会議・造形文化会議）を置き、研究組織として研究部（プロジ	1

<p>る。</p>	<p>めの組織および体制を計画する。</p>	<p>エクト推進会議)を置くこととした。 (新)富山大学の設置に伴い、本学は高岡短期大学部となり、在 学生がいる間は存続することとなり、そのため、学則、教授会、学 科会議等について、現在の体制をもとに新たな組織に対応すること とした。</p>		
<p>・学外の有識者・専門家を、役員 及び経営協議会に登用する。</p>		<p>法人発足と同時に学外の有識者・専門家を役員及び協議会委員に 登用済みのため、平成17年度の年度計画には記載していない。 なお、協議会の学外委員は次のとおり。 ・富山県副知事 ・高岡市長 ・高岡商工会議所会頭 ・高岡市生涯学習センター長 ・前京都工芸繊維大学長 ・高岡市デザイン・工芸センター長</p>		
<p>・学内各種委員会の委員に必要な に応じて事務部職員を加え、教員と 事務職員が一体となって、大学運 営上の諸問題に対応する。</p>	<p>・芸術文化学部設置に向けて、委 員会等の運営に教員と事務職員が 一体となって取り組むための方策 を検討する。</p>	<p>学部運営委員会に事務職員が委員として加わることとした他、情 報広報委員会、危機管理委員会にも事務職員が委員として加わるこ ととした。また、入学試験委員会、教務委員会、進路委員会等につ いては、教員と事務職員が一体となって取り組めるよう委員会に事 務職員が加わることについて、継続して審議することとした。</p>	<p>1</p>	
<p>内部監査機能の充実 内部監査機能の適正化を図るた め、学外有識者の協力を得て、内 部監査の手法を確立し内部牽制体 制の確保に努める。</p>	<p>・学外の有識者による意見を組 織、事務、業務等の改善に反映さ せ、内部牽制体制を確保する。</p>	<p>会計業務の内部統制等について会計監査人の意見を参考に会計業 務の処理方法等を改善し、内部牽制体制を確保した。 (新)富山大学の設置に伴い、事務部の組織の見直しを行い、監 査のあり方、内部牽制体制の確保について検討を行った。</p>	<p>1</p>	
<p>効果的な学内資源配分 評価に応じた物的及び人的資源 の配分を推進するために、経営・ 財務分析を行うとともに全学的観 点からその方策を検討し、教育・ 研究の活性化を図る。</p>	<p>・教員の評価結果を予算配分に反 映させる方法について、検討する。</p>	<p>教員の評価結果を予算配分に反映させる方法を検討し、教育研究 活動を促進するため、研究経費にインセンティブ配分を第1次(平 成17年9月配分)と第2次(平成17年12月配分(予定))で実施す る。 教育研究インセンティブ経費 該当教員に対して1人当たり5万円を配分する。 ・科学研究費補助金の新規応募者(平成17年12月配分予定) ・教育GP検討委員(11人) ・公募展入選者のうち助教授、講師、助手 (平成17年12月配分予定) ・学生の投票により選出されたベストティーチャー(5人) ・プロジェクト授業の申請代表者(3人) 公開講座インセンティブ経費 公開講座・公開授業について開設講座・授業数、開設時間数、 受講者数及び受講率等についてポイント制の評価を行い、主任 担当教員等に対してポイントに応じて総額160万円を配分する。 (平成17年12月配分予定)</p>	<p>1</p>	
<p>ウェイト小計</p>			<p>8</p>	

業務運営の改善及び効率化
2 教育研究組織の見直しに関する目標

中期 目 標	教育研究体制の充実強化，地域貢献，社会貢献の機能強化を図るため，富山県内国立大学法人の再編・統合を推進する。
--------------	--

中期計画	年度計画	進行状況	判断理由（実施状況等）	ウェイト
富山県内の国立大学法人3機関において，平成17年10月の再編・統合を目指して協議を進める。	富山県内の国立大学法人3機関において，平成17年10月の再編・統合に向けて，各種部会，ワーキンググループにおいて協議を進める。		<p>新大学設置準備のため，3大学の代表で構成する新大学創設準備協議会を設置し，その下に，学長，副学長など少人数で構成する新大学創設準備推進委員会を設置して具体的な協議を実施した。</p> <p>また，同推進委員会に設置された各種部会やワーキンググループに，教員及び事務職員を委員として参加させ，具体的な検討を行った。</p> <p>新大学創設準備のための富山県内3大学による再編・統合関係会議開催回数は，84回であった。</p> <p>学内には，本学を再編・改組して設置する予定の芸術文化学部に関し，芸術文化学部設置準備委員会を設置し，新学部発足に向け必要な事項の検討を行っている。芸術文化学部設置準備委員会の開催回数は12回であった。</p> <p>また，全教職員を対象に，芸術文化学部に関する説明のための教職員集会を3回開催した。</p> <p>なお，庶務課内に再編・統合担当専門職員を1名配置し，また，新大学創設準備のために設置された新大学創設準備室に，事務職員を1名派遣しており，各種会議等の連絡調整等を行った。</p>	2
			ウェイト小計	2

業務運営の改善及び効率化
3 人事の適正化に関する目標

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員については、教員構成の多様化に努めるとともに、教員の流動性の向上を図り、教育研究の活性化を図る。また、教職員に対する、業績等を適切に評価するシステム作りに努める。 ・ 事務職員の専門的能力及び資質の向上を図るために研修機会を確保するとともに、適切な人事配置・人事交流に努める。
------	---

中期計画	年度計画	進行状況	判断理由（実施状況等）	ウェイト
柔軟な人事制度の構築 ・ 教職員の定員については、学科等の枠を越えて学長の下に一元的な管理を行う。	柔軟な人事制度の構築 ・ 教員の補充については、学科の枠を越えて、芸術文化学部を設置も視野に入れ、全学的な観点から補充すべき専門分野を設定する。		常勤職員の人事管理にあたっては、本年度も定員を設定し、定員の管理については、学科・課の枠を越えて学長が一元的な管理を行った。 教員の欠員補充については、全学的観点から、役員会、教育研究評議会の議を経て1人の採用を決定した。 事務職員の人事交流については、富山県内外の国立大学と次のように実施した。 ・ 学外への転出者4人（筑波大学1人、静岡大学1人、富山大学2人） ・ 本学への転入者3人（福井大学1人、富山大学2人）	1
・ 教職員の多様な勤務形態の導入を検討する。	・（新）富山大学設置に向けて、就業規則案の検討を行い、その中で勤務形態についても検討する。		本学の就業規則には、教員に裁量労働制を採用できる旨の規定、及び、業務の都合により職員の勤務時間割り振りを変更できる旨の規定を設けており、教員に関して裁量労働制を適用している。 また、学生課職員について勤務時間割り振り変更し、職員2名の勤務時間を通常より1時間繰り下げることにより、昼食時や授業終了時等の窓口対応を、勤務時間内に実施できるようにした。 （新）富山大学の就業規則においても、人事WGで検討を行い、同様の規定を設けることとなった。	1
・ 教員採用にあたっては、職務に応じた任期制の導入を検討する。			高岡短期大学として、平成17年度の計画はない。	
・ 教員の評価にあたっては、教育、研究・制作の業績及び地域社会、大学運営への貢献等を評価し、その結果を管理運営に反映させる。 また、事務職員についても評価を行う。	・ 計画評価委員会において、教員の適切な評価方法の検討を行う。		計画評価委員会において、教員の評価方法等について、既に教員の個人評価を実施した国立大学等の例を参考に、個人評価の目的、評価項目などを中心に、基本的な考え方について検討を行った。 その結果、次の項目について本学としての基本的な考え方を取りまとめた。 ・ 教員の個人評価は、教育研究等の活性化のために実施するもので、各教員の基礎データを蓄積し、将来的には人事に利用することも視野に入れ評価を実施する。 ・ 評価項目として、4つの大項目を設け、各項目にウェイト付けを行う。 教育に関する活動 研究に関する活動 社会（地域）貢献に関する活動 大学運営に関する活動	1
事務職員の資質の向上 ・ 事務職員の専門的能力や資質の向上のため、多様な研修機会を設ける。	事務職員の資質の向上 ・ 事務職員の能力開発、専門性の向上のため、次の研修を実施する。 ア 語学研修 イ 財務・会計研修		・ 語学研修 教育・研究の国際化に対応するため、前年度に引き続き実施したが、本年度はウェスタンオレゴン大学における実地語学研修として、英語を実際に運用すること、並びに、論理的な思考方法	1

	<p>ウ 安全衛生管理研修</p>	<p>と議論の仕方を習得することを目的として実施した。 受講者は2人で、平成17年8月17(水)日から8月30日(火)までの間に実施した。</p> <p>・財務・会計研修 学外機関が主催した公認会計士による国立大学法人会計基準等に関する知識を習得するための研修会に1名が参加した。 (自然科学研究機構岡崎統合事務センター,平成17年9月,3日間)</p> <p>・安全衛生管理研修 初任者を対象とした研修会を平成17年4月に1日実施し,13人が受講した。</p>	
<p>・事務職員については、派遣・契約社員の活用など民間等からの登用も含め、職種に応じた多様な採用に努める。 また、他大学や民間企業等との人事交流の推進に努める。</p>	<p>・芸術文化学部に向けて、事務組織や人員配置などについて検討する。</p>	<p>新大学創設準備推進委員会に設置された管理運営部会において、新大学の事務組織、人員配置等について本学職員も参加し検討を行い、芸術文化学部を含めた新大学の事務組織、人員配置等を決定した。</p> <p>高岡地区には、総務管理課と学生課を置き、総務管理課にこれまで本学で培った地域連携・産学連携をより一層推進するため、地域連携室を置くこととした。 地域連携室は、室長、専門職員(生涯学習担当)、専門職員(産学連携)及び地域交流係で組織する。</p>	<p>1</p>
		<p>ウェイト小計</p>	<p>5</p>

業務運営の改善及び効率化
4 事務等の効率化・合理化に関する目標

中期目標	事務処理の効率化・合理化を図るとともに事務処理体制の強化に努める。
------	-----------------------------------

中期計画	年度計画	進行状況	判断理由（実施状況等）	ウェイト
・富山県内3国立大学法人との再編・統合を視野に入れ、各種事務処理の方法及び事務組織の機能・編成の見直しを図り、事務処理の簡素化・迅速化を図る。	・（新）富山大学設置に向けて、新たな事務組織の運営、各種事務処理の方法等について検討する。		（新）富山大学の事務組織に応じた運営、各種事務処理の方法等について検討し、各キャンパスの連絡調整のために、事務協議会を設置することとした。 情報基盤整備を前倒しし、事務システムの共通化を図り、事務処理の簡素化、迅速化を図ることとした。 情報基盤整備に要する経費 平成17年度 約330百万円 平成18年度 約180百万円 グループウェアの積極的な利用により、各種連絡業務等の簡素化を図ることとした。	2
・事務情報の電子化を図り、ITを活用した事務処理の推進に努める。	・（新）富山大学設置に向けて、全学的なグループウェアを導入することに伴い、情報化推進に必要な準備を行う。		「国立大学法人富山大学事務情報化実施計画」を制定し、次の項目を進めることとした。 レンタルパソコン、老朽化パソコン等の更新・整備 事務系職員が使用するソフトウェアの標準化及び更新、整備並びに管理（ソフトウェアの標準化は、「国立大学法人富山大学における事務用ソフトウェア及び事務系職員が用いる情報交換用ファイルの標準化について（方針）」による。） 全学的なグループウェアの導入 通知文書・会議資料等の電子化 各課等が保有する資料等のデータベース化 事務系職員の情報に関する研修会・講習会 特に、ソフトウェアの統一化については、ソフトウェア等を管理する部署が必要と認めたソフトウェア以外のインストールを禁止し、パソコンの障害やネットワークに障害を与えることのないよう、厳格なルール化を図った。	1
・共同処理が可能な業務については、近隣大学等との協議を進める。	・調達事務の共同処理について事項の検討を行い、可能な事項から順次実施する。		再編・統合する富山県内3国立大学法人において、富山大学が中心となり、広報用印刷物の一括調達事務を行い、調達業務が軽減できた。 平成17年度調達額 5件 405千円	1
・適切なアウトソーシングの導入に努める。	・各種業務処理について、アウトソーシングへの可能性について検討を行う。		再編・統合する富山県内3国立大学法人において、統合後の旅費関係業務について、分科会を設置し、平成18年4月導入を目指してアウトソーシングの実施に向けて検討を行った。 ・前年度実績を基に、削減額をシミュレーションして検討した。 ・デモンストレーションにより、利用者及び業務担当者の利便性及び改善が必要な点等を検討した。	1
ウェイト小計				5
ウェイト総計				20

〔ウエイト付けの理由〕

富山大学、富山医科薬科大学及び高岡短期大学の3国立大学法人は、平成17年10月に再編・統合して（新）富山大学となり、高岡短期大学は（新）富山大学の学部の一つである芸術文化学部にて再編改組する。この再編・統合の準備は、本学にとって非常に重要であり、新大学及び芸術文化学部創設準備のため、多数の教職員が、通常の業務の他に各種部会やワーキンググループのメンバーとなり、様々な検討を重ねている。このことから、ウエイトを2とした。

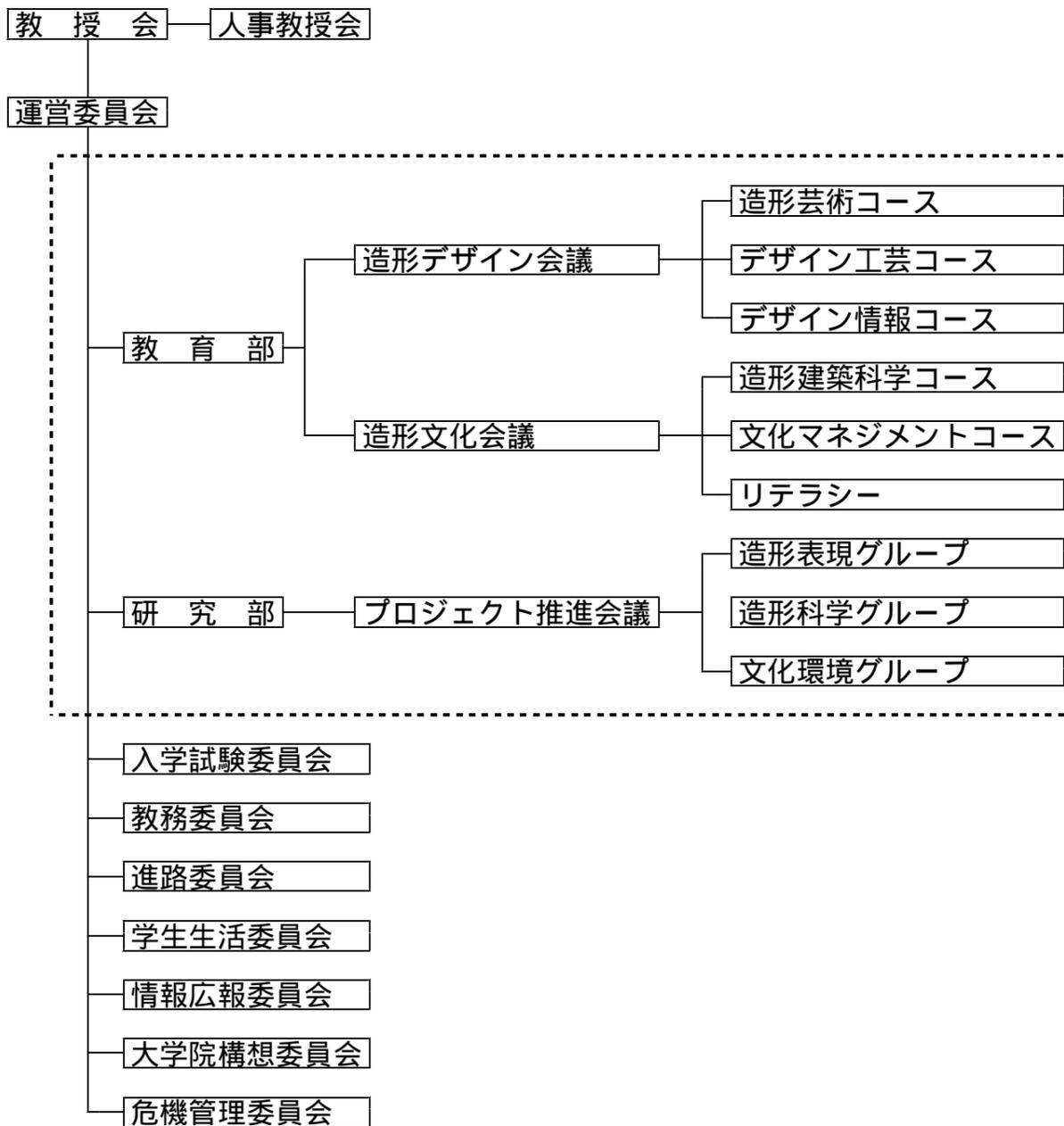
（新）富山大学の事務組織の機能・編成の見直しについては、事務組織部会で検討していたが、再編・統合後は、各キャンパスの連絡調整等のため事務協議会を置くこととした。また、事務処理の簡素化、迅速化を図るため、各キャンパスの事務システムの共通化等を図るため、情報基盤整備を前倒しして実行することとした。このことから、ウエイトを2とした。

業務運営の改善及び効率化に関する特記事項

芸術文化学部の管理運営組織，教員の個人評価検討状況等

1 芸術文化学部の管理運営組織

芸術文化学部設置準備委員会及び教職員集会での審議により，管理運営組織を決定した。
体制を図で示すと，次のとおりである。



教育部：教育を担当する組織であり，教育に関する意志決定機関として造形デザイン会議及び造形文化会議を置く。
芸術文化学部の教員は，全員各会議の下に置かれる教育コース等の運営に参加する。
造形デザイン会議は，造形芸術コース，デザイン工芸コース及びデザイン情報コースの教育に関し，横断的に意見を集約し意志決定を行う。
造形文化会議は，造形建築科学コース，文化マネジメントコース及びリテラシーの教育に関し，横断的に意見を集約し意志決定を行う。

研究部：芸術文化学部のポテンシャルと地域への知的サービスの向上を目指し，地域連携プロジェクトを醸成するために，プロジェクト推進会議を置き，その下に造形表現グループ，造形科学グループ及び文化環境グループを置く。
芸術文化学部の教員は，各自の研究分野によりいずれかの研究グループに所属する。
プロジェクト推進会議は，次の事項に取り組む。
芸術文化学部を構成する専門分野の能力を高める。
教員相互の専門分野の交流を促進する。
地域連携プロジェクトを推進する。
外部資金獲得研究プロジェクトを推進する。
芸術文化系大学院の設置を視野に，教員の業績目標を検討する。

高岡短期大学は，在学生がいる間は高岡短期大学部として存続することとなる。高岡短期大学部には教授会が設置され，学生の身分等について審議を行うこととする。
管理・運営面については，芸術文化学部が担当することで，会議の簡素化を図るものである。

2 教員の個人評価検討状況

教員の評価については，計画評価委員会で検討の結果，個人評価実施の基本的な考え方を次のとおり決定した。ただし，その実施時期については，平成17年10月に再編・統合される（新）富山大学における全学的な審議を経たうえで実施する。

- (1) 教員の個人評価実施の目的
教員の個人評価は，教育研究等の活性化のために実施する。
なお，各教員の基礎データを蓄積し，将来的には人事に利用することも視野に入れ，評価を実施するものとする。
- (2) 評価項目
教育に関する活動
研究に関する活動
社会（地域）貢献に関する活動
大学運営に関する活動
- (3) 実施方法
評価は，学部等の目標をもとに各教員が計画を作成し，その計画の実施状況に対して行うものとする。
計画の実施状況に対する評価は，各教員が自己評価を行い，それをもとに学部において評価を行い 評価結果は各教員に通知し本人以外に公表しないものとする。
評価項目のデータは毎年作成し，評価は，3～5年ごとに実施するものとする。
複数の項目にわたる活動及び活動の結果が出るまで時間がかかるもの等については，その点を考慮して評価を行う。

財務内容の改善
1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標

中期目標	科学研究費補助金など外部研究資金その他の自己収入の増額に努める。
------	----------------------------------

中期計画	年度計画	進行状況	判断理由（実施状況等）	ウェイト
・教員に対し 科学研究費補助金、各種研究助成制度など外部研究資金に関する情報提供を充実するとともに、申請状況を毎年点検し、申請の増加を図る。	・教員に対し 科学研究費補助金、各種研究助成制度など外部研究資金に関する情報提供を引き続き行っていくとともに、科学研究費補助金の申請促進のため、インセンティブ制度を実施する。		<p>・教育研究活動を促進するため、研究経費にインセンティブ配分を第1次（平成17年9月配分）と第2次（平成17年12月配分（予定））で実施する。</p> <p>教育研究インセンティブ経費 該当教員に対して1人当たり5万円を配分する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金の新規応募者（平成17年12月配分予定） ・教育GP検討委員（11人） ・公募展入選者のうち助教授、講師、助手（平成17年12月配分予定） ・学生の投票により選出されたベストティーチャー（5人） ・プロジェクト授業の申請代表者（3人） <p>公開講座インセンティブ経費 公開講座・公開授業について開設講座・授業数、開設時間数、受講者数及び受講率等についてポイント制の評価を行い、主任担当教員等に対してポイントに応じて総額160万円を配分する。（平成17年12月配分予定）</p> <p>・科学研究費補助金に関する説明会を次のとおり開催した。 8月30日 科学研究費補助金の説明会（富山医薬大主催、本学を含む県内機関共催）を開催した。 本学から約20人出席 9月9日 科学研究費補助金の説明会を双方向遠隔授業システムを利用し、富山大学と共同で開催した。 本学から18人出席</p> <p>・各種外部資金に関する情報を、教員に対しホームページで公開している。</p>	2
・企業や自治体等に対し、共同研究、受託研究及びコンサルテーション等の制度並びに研究者のシーズの紹介など広報の充実と努めるとともに、研究者も積極的に対応する。	・企業や自治体等に対し、共同研究、受託研究及びコンサルテーション等の制度並びに研究者のシーズの紹介などをホームページに掲載し広報する。		<p>共同研究、受託研究及びコンサルテーション等の制度については、本学ホームページの「大学開放活動」に制度の概要を掲載している。 また、3大学統合後に発行する研究者情報のデータを取りまとめ、CD-ROMを作成した。このデータは、（新）富山大学のホームページで公開することとした。これにより、企業や自治体等関係者が、3大学の研究者情報のデータを閲覧することが容易になり、より一層の共同研究・受託研究が促進されることが期待される。</p>	1
・学内の、テニスコート、体育館などの体育施設や講堂、会議室などの施設・設備について、積極的に開放し、使用料収入の増加に努める。	・学内の体育施設や講堂、会議室などの施設・設備の開放について、有効利用のため地域住民等への広報を引き続き行っていく。		<p>地域住民等には、大学の行事あるいは学生の授業・クラブ活動に支障のない日時に、テニスコート、グラウンド、体育館等を積極的に開放している。 また、体育施設については本学ホームページにて、使用料金の情報、予約状況（定期的に更新する）を発信し、地域住民等が利用しやすいようにした。 体育施設等の開放実績は、「資料編」の資料9（37頁）参照</p>	1
・各種証明書の有料化を検討する。			高岡短期大学として、平成17年度の計画はない。	
			ウェイト小計	4

財務内容の改善
2 経費の抑制に関する目標

中期目標	予算を効率的に執行し、管理業務の節減及び効率的な施設運営を行う等により、経費の節減を図る。
------	---

中期計画	年度計画	進行状況	判断理由（実施状況等）	ウェイト
・管理業務の節減や効率的な運営を行うことなどにより、経費の抑制を図る。	・経費の抑制が可能な事項の調査及び実施に向けての検討を行う。		再編・統合する県内3国立大学法人において、今後さらに経費の抑制を図るため、抑制が可能な事項の調査を行い、実施に向けて検討し、可能なものから実施した。 ・複写機の賃貸借、タクシーの借上、PPC用紙の調達、燃料の調達を一括契約することとした。 ・雑誌や新聞など定期刊行物の購読部数を見直した。 ・常勤職員の欠員をパートタイム職員の採用で補い、人件費を削減した。（削減額 6ヶ月 2人 550万円）	1
・可能な限り近隣大学等と共同購入や一括調達を協議し、調達価格の低廉化を図り、経済的な調達に努める。	・共同購入や一括調達が可能な事項の調査・協議を行い、可能な事項から順次実施する。		再編・統合する富山県内3国立大学法人において、富山大学が中心となり、広報用印刷物の一括調達事務を行い、調達業務が軽減できた。 平成17年度調達額 5件 405千円	1
・業務処理の点検評価を行い、適切なアウトソーシングの導入に努める。	・各種業務処理についてアウトソーシングへの可能性について検討を行う。		再編・統合する富山県内3国立大学法人において、統合後の旅費関係業務について、分科会を設置し、平成18年4月導入を目指してアウトソーシングの実施に向けて検討を行った。 ・前年度実績を基に、削減額をシミュレーションして検討した。 ・デモンストレーションにより、利用者及び業務担当者の利便性及び改善が必要な点等を検討した。	1
・教職員の多様な勤務形態の導入を検討する。	・（新）富山大学設置に向けて、就業規則案の検討を行い、その中で勤務形態についても検討する。		本学の就業規則には、教員に裁量労働制を採用できる旨の規定、及び、業務の都合により職員の勤務時間割り振りを変更できる旨の規定を設けており、教員に関して裁量労働制を適用した。 また、学生課職員について勤務時間割り振り変更し、職員2名の勤務時間を通常より1時間繰り下げることにより、昼食時や授業終了時等の窓口対応を可能とした。 （新）富山大学の就業規則においても、人事WGで検討を行い、同様の規定を設けることとなった。	1
			ウェイト小計	4

財務内容の改善
3 資産の運用管理の改善に関する目標

中期目標	大学が保有する資産の効果的・効率的な運用を図る。
------	--------------------------

中期計画	年度計画	進行状況	判断理由（実施状況等）	ウェイト
・資産の効果的・効率的な運用を図るための体制を整備し、運用計画を策定して実施する。	資産の効果的・効率的な運用を図るための体制の検討を行う。		<p>これまで、資産の効果的・効率的な運用及び管理について、財務担当理事及び関係課において検討を行ってきたが、平成17年10月に本学を含めた富山県内3国立大学法人が再編・統合されたため、統合後の新大学において、体制を再検討することとした。</p> <p>本学においては、グループウェアを導入し、会議室、講義室等の状況をWEBで確認できるようにして、効率的に使用できるようにしている。</p> <p>体育施設については本学ホームページにて、使用料金の情報、予約状況（定期的に更新する）を発信し、地域住民等が利用しやすいようにした。</p> <p>平成17年9月30日（金）までに受け付けた本学体育施設等利用者は、延べ13,622人であり、施設開放による収入は1,042千円であった。体育施設等の開放実績は、「資料編」の資料9（37頁）参照</p> <p>芸術文化学部の設置に向けて、これまでの講義室・研究室等の配置を全面的に見直し、スペースの効率的な利用を計画する組織として、芸術文化学部設置準備委員会に施設・整備部会を置き、施設の配置について検討を行い、平成17年度～平成19年度の学生が休業期間にかけて改修工事を行うこととした。</p>	2
			ウェイト小計	2
			ウェイト総計	10

〔ウェイト付けの理由〕

科学研究費補助金の申請件数の増加及び文部科学省が公募した平成17年度「現代的ニーズ取組支援プログラム」（現代GP）に積極的に申請し、その結果として平成16年度に引き続き採択されたことは、中期目標に掲げた、自己収入の増額に結びつくものとしてインセンティブ制度を重要な事項と考えており、ウェイトを2とした。

体育施設等の開放状況の情報発信、講義室・研究室等の配置を全面的に見直しは、施設使用料収入の増額、大学のスペースの効率的な利用に結びつくものとして重要な事項と考えており、ウェイトを2とした。

財務内容の改善に関する特記事項

外部資金等の獲得状況等について

高岡短期大学の、平成17年度における公開講座等による収入及び公募による補助金の獲得状況は、次のとおりである。

1 公開講座・公開授業

	開設	受講	受講人数	収入金額(円)
公開講座	20	20	348	2,774,520
公開授業	106	20	22	294,840
合計	126	40	370	3,069,360

2 施設開放

	利用延日数	利用延人数	収入金額(円)
テニスコート	677	9,062	600,717
グラウンド	14	2,023	163,303
体育館	6	242	45,792
講堂	6	1,410	150,743
講義室等	9	885	81,179
合計	712	13,622	1,041,734

3 共同研究, 受託研究, 受託研究員

	受入件数	受入金額(円)
共同研究	2	1,560,000
受託研究	0	0
受託研究員	0	0
合計	2	1,560,000

4 奨学寄附金

受入件数	受入金額(円)
22	5,321,500

5 科学研究費補助金(平成16年度申請分)

	申請件数	採択件数	補助金額(円)
基盤研究(B)	4	2	9,800,000
基盤研究(C)	9	3	3,600,000
萌芽研究	8	2	2,100,000
若手研究(A)	1	0	0
若手研究(B)	3	0	0
合計	25	7	15,500,000

6 「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)及び「現代的ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)による補助金。

取組名	補助金額(円)
学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト(特色GP)	15,500,000
「炉端談義」方式による地場産業活性化授業(現代GP)	13,500,000
非言語と言語の融合による地域国際化教育(現代GP)	10,000,000
合計	39,000,000

7 大学等開放推進事業(Jr.サイエンス事業)

講座名	受入金額(円)
金属をとかして みがいて 新発見!!	500,000

自己点検・評価及び情報提供
1 評価の充実に関する目標

中 期 目 標	自己点検・評価を実施するとともに、評価結果を大学運営の改善に反映させる。
------------------	--------------------------------------

中期計画	年度計画	進行状況	判断理由（実施状況等）	ウェイト
自己点検・評価の組織については、再編強化し、評価結果を大学運営に反映させるシステムを構築する。	芸術文化学部を設置に向けて、学部としての目標、計画、自己点検・評価などに係る組織について検討する。		計画評価委員会において、「平成16事業年度に係る業務の実績に関する報告書」の取りまとめを行い、年度計画の実施状況について自己評価を行った。 また、平成17年度の年度計画の実施状況について、平成17年8月に年度計画の各項目の主たる実施担当による自己点検・報告を求め、未実施の項目の実施促進等を図った。 芸術文化学部を設置に向けて、芸術文化学部設置準備委員会において、芸術文化学部の目標、計画、自己点検・評価などに係る組織として、学部運営委員会を設置することとした。	1
			ウェイト小計	1

2 自己点検・評価及び情報提供
情報公開等の推進に関する目標

中期目標	教育研究の活動状況等の情報について、各種媒体を通して、社会への公開に努める。
------	--

中期計画	年度計画	進行状況	判断理由（実施状況等）	ウェイト
・広報について、既存のホームページ、広報誌の点検・見直しを行うとともに、本学の広報プランを策定し、そのプランに沿って推進を図る。	・（新）富山大学設置に向けて、3大学で協議しながら、シンボルマーク、ホームページ、広報冊子、ポスター等の作成を行う。		新大学創設準備推進委員会に設置した広報部会において、ホームページWG、ポスター・冊子WG、ロゴマークWGを設置し、ホームページ、ロゴマーク、広報用冊子、ポスター等の作成を行った。これらのWGにおいて、本学からの選出委員が専門性を発揮し、WG中心となり、（新）富山大学の広報活動を主導した。	2
	・芸術文化学部設置に向けて、教員と地場産業とのコラボレーションによる「工芸都市高岡 伝統と革新」展を実施し、また、各種イベントの実施等を検討する。	<p>・本学の教員が高岡の地場産業界や伝統職人の方々とコラボレーションすることにより、大学の持つ「知」と地域が持つ「技」を融合させた新規制作作品の展覧会「工芸都市高岡 伝統と革新」展を開催している。 場 所：高岡市美術館 期 間：平成17年9月15日（金）から平成17年10月16日（日） 参加者：約2,200人</p> <p>・富山・高岡地域の発展を目指し、海外在住で活躍されている芸術家等を招いて、芸術文化のあり方や日本文化の発信について考える記念フォーラムを開催した。 場 所：ウイング・ウイング高岡 期 日：平成17年9月30日（金） テーマ：「世界が注目する日本の芸術文化」 参加者：約330人</p> <p>・地域の人々や芸術文化関係者・教育関係者に、芸術文化学部を認知してもらうため、シンポジウムを計画し一部開催した。 芸術文化学部創設記念東京シンポジウム 「日本の未来と、地方・芸術文化・教育・文化都市善の融合で -」 場 所：丸の内 MY PLAZA ホール（東京都千代田区） 期 日：平成17年6月10日（金） パネリスト：養老孟司氏（解剖学者・東京大学名誉教授） 安川英昭氏（セイコーエプソン（株）取締役相談役） 中村史郎氏（日産自動車（株）常務デザイン本部長） 妹島和世氏（建築家・慶應義塾大学教授） コーディネーター：伊東順二氏（長崎県美術館館長） 参加者：約400人</p> <p>芸術文化学部創設記念シンポジウム 場 所：富山大学高岡地区講堂（予定） 期 日：平成17年11月12日（土）～13日（日）（予定） テーマ：「万葉に未来を、たずねる IMAYOU」 パネリスト：坂根巖夫氏（IAMAS初代学長） ジェフリー・ジョー氏（ニュー・サウス・ウェールズ大学インタラクティブ・シナ研究センター代表所長） 高田晃一氏（高田製作所常務取締役） 隈 研吾氏（隈研吾建築都市設計事務所代表取締役） アレックス・カ氏（東洋文化研究家）</p>		2

		大樋年雄氏(大樋焼次期家元) 橋本夕紀夫氏(橋本夕紀夫デザインスタジオ代表) その他芸術文化学部教員	
・自己点検・評価の結果については公表する。	・平成16年度の業務実績に関する報告書等を作成し、その内容を公表する。	平成16年度の財務諸表, 事業報告書等を作成・提出し, 文部科学大臣の承認を受けた。これらについては, ホームページにおいて公開した。 また, 平成16事業年度に係る業務の実績に関する報告書を本学のホームページ上に公開した。	1
・高岡短期大学の創設時からの教育, 研究・制作, 地域貢献等活動状況を取りまとめ公表する。	・高岡短期大学の創設時からの教育, 研究・制作, 地域貢献等活動状況を取りまとめた「高岡短期大学の歩み」を発行する。	高岡短期大学の創設時からの教育, 研究・制作, 地域貢献等活動状況を取りまとめた「高岡短期大学二十二年の歩み」について, 第一分冊(回想編)を平成17年9月に作成, 配付した。全168頁, 4,300部作成 また, 第二分冊(資料編)については, 平成18年3月発行の予定である。	1
		ウェイト小計	6
		ウェイト総計	7

〔ウェイト付けの理由〕

新大学創設の広報活動において中心的な役割をはたすことは, (新) 富山大学において, 芸術文化学部の重要度を高める上で重要な事項と考えており, ウェイトを2とした。

芸術文化学部の受験を希望する者, 教育関係者, 地域連携・産学連携関係者等に, 芸術文化学部を認識してもらふことは, 芸術文化学部が発展する上で重要な事項と考えており, ウェイトを2とした。

自己点検・評価及び情報提供に関する特記事項

富山県内3国立大学法人の再編・統合による新大学の創設と、本学（高岡短期大学）が母体となって設置する「芸術文化学部」の広報について

1 芸術文化学部の広報について

本学は、平成17年10月に県内3国立大学を再編・統合し、(新)富山大学の芸術文化学部となる予定である。これまで、短期大学として地域社会や教育関係者の認知を得ていたが、芸術文化学部は、全く新しい学部として新設されるため、入学志願者獲得のためにも、広く広報活動を実施することが重要であると認識している。

芸術文化学部広報は、学長補佐(新学部広報担当)を置き、理事と学長補佐が中心となり、広報室を設置し、新大学に関する広報を行った。

2 広報活動

(1) 高校訪問

従来から、入試委員会委員を中心に北陸地方の高校を中心に高校訪問を行ってきたが、新設される芸術系の学部としての認知度を高める観点から、広報室が中心となり、全国を地区ごとに分け、それぞれの地区担当責任者の教員が派遣教員と派遣日程を調整のうえ、高校訪問を実施した。

高校(予備校含む)訪問の実績(平成16年10月から平成17年9月末まで)

地 区	訪問校	地 区	訪問校	地 区	訪問校
北海道, 東北	8	富 山	34	関 西	56
関東, 新潟	24	石 川	29	中国, 四国	22
中 部	25	福 井	11	九 州	43

(2) 教員向け説明会

従来から、高校との入試懇談会として実施してきたが、芸術文化学部への理解深めるため、高校教員・美術予備校教員向けの説明会を開催し、芸術文化学部の概要、入学者選抜試験の説明及び他の芸術系学部にはないユニークなコースとして注目される文化マネジメントコースに関する講演を実施した。

実施年月日： 平成17年6月28日(火)

参加者数等： 74校83名

(3) オープンキャンパス

平成17年度の実施に当たり、例年案内を送付している高校等だけではなく、高校訪問等で新たに開拓した高校・予備校にも通知を行った。参加者の便宜を図るためJR高岡駅と本学間にシャトルバスを運行し、また、学生食堂の無料メニューの提供、芸術文化学部紹介DVD配布を行った。

オープンキャンパスでは、芸術文化学部の概要及び入学者選抜試験の説明に加え、芸術文化学部の5コースの詳細な説明と模擬授業を行い、好評を得た。

実施年月日	第1回 平成17年7月21日	第2回 平成17年8月4日	第3回 平成17年10月29日・30日
参加者数等	75校232人	92校286人	(予定)

(4) イベント

地域の人々や芸術文化関係者・教育関係者に、芸術文化学部を認知してもらうため、各種のシンポジウム、フォーラム及び展覧会を開催した。

芸術文化学部創設記念東京シンポジウム

「日本の未来と、地方・芸術文化・教育 - 文化都市善の融合で - 」

開催日時： 平成17年6月10日(金)

開催場所： 丸の内 MY PLAZA ホール(東京都千代田区)

パネリスト： 養老孟司氏(解剖学者・東京大学名誉教授)

安川英昭氏(セイコーエプソン(株)取締役相談役)

中村史郎氏(日産自動車(株)常務デザイン本部長)

妹島和世氏(建築家・慶應義塾大学教授)

コーディネーター： 伊東順二氏(長崎県美術館館長)

参加者数： 約400人

芸術文化学部創設記念展覧会

「工芸都市高岡伝統と革新」展

開催日時： 平成17年9月16日(金)～10月16日(日)

開催場所： 高岡市美術館(富山県高岡市)

概 要： 芸術文化学部創設記念に、教員が地域の産業界や伝統工芸に携わる者とのコラボレーションによる作品を作成した。ものづくりの新たな領域に挑む作品約50点と、教員のバックグラウンドである金属、漆、木材、デザイン、建築、彫刻、絵画などの作品約50点を展示した。

見学者数： 約2,200人

芸術文化学部創設記念フォーラム

「世界が注目する日本の芸術文化」

開催日時： 平成17年9月30日(金)

開催場所： ウイング・ウイング高岡(富山県高岡市)

パネリスト： 伊藤 節氏(デザイナー・建築家)

伊藤志信氏()

瀧上憲二氏(フォトグラファー・エディター)

瀧上妙子氏()

参加者数： 約330人

芸術文化学部創設記念シンポジウム

「万葉に未来を、たずねる IMAYOU」

開催日時： 平成17年11月12日(土)～13日(日)(予定)

開催場所： 富山大学高岡地区講堂(予定)

パネリスト： 坂根巖夫氏(IAMAS初代学長)

ジェフリー・ショー氏(ニュー・サウス・ウェールズ大学イタケイブ・シナ研究センター代表所長)

高田晃一氏(高田製作所常務取締役)

隈 研吾氏(隈研吾建築都市設計事務所代表取締役)

アレックス・カ氏(東洋文化研究家)

大樋年雄氏(大樋焼次期家元)

橋本夕紀夫氏(橋本夕紀夫デザインスタジオ代表)

その他芸術文化学部教員

(5) その他

ドキュメンタリー制作

民間放送局に、県内3国立大学法人の再編・統合から新学部（芸術文化学部）の立ち上げまでをドキュメンタリーとして制作依頼し、地元企業等の協力により番組として放映されることとなった。

タイトル：「決然と未来へ - 地方大学『知』の時代への挑戦 - 」

内 容：

- ・平成13年の遠山プランにより国立大学の建て直しが始まった。国立大学の機能を社会のニーズに合致させ、効率良く成果を上げられるような体質に改善することを目指したものの。
- ・高岡短期大学は芸術文化学部として四年制の学部生まれ変わる。故蟬山学長は芸術文化学部の目玉として「アートマネジメント」「メディアアート」分野を構想し、社会に役立つ、新しい感性に訴える芸術を採り入れた。

放送年月日等

放送年月日：平成17年11月6日（日） 13時00分～13時55分

放送局：北日本放送

放送年月日：平成17年12月11日（日） 16時30分～17時25分

放送局：BS日テレ（株式会社 BS日本）

芸術文化学部紹介DVD

芸術文化学部への受験を希望する者、教育関係者及び企業関係者等へ芸術文化学部のコース等及び高岡地区の施設・設備などを分かりやすく・親しみやすく紹介し、もって芸術文化学部への興味を高めることを目的として、学部紹介DVDを作成した。

制作枚数：1,623枚（著作権は大学所属）

配布先：芸術文化学部の受験を希望する者（オープンキャンパス等参加者）

高校訪問時の進路指導担当者など

その他の業務運営に関する重要事項
1 施設設備の整備・活用等に関する目標

中期 目 標	施設設備の整備・利用状況等を点検し、教育研究スペース等の適正な配分、施設設備に関する長期構想の策定、計画的な施設整備・維持管理を推進する。
--------------	---

中期計画	年度計画	進行 状況	判断理由（実施状況等）	ウ ェ イト
・全学的な施設・設備の利用状況に関する点検調査を実施する。			高岡短期大学として、平成17年度の計画はない。	
・施設については、教育研究スペース等の配分の見直しを行い既存施設の有効活用を図り、また、施設整備に関する長期構想を策定し、計画的な施設整備に努める。設備については、計画的に更新し、学内環境の向上を目指す。	・芸術文化学部に向けて、教育研究スペース等の配分を決定するとともに、必要な施設整備を行う。		平成16年度に策定した新学部ゾーニング及び年度別改修計画を平成17年度の予算化に伴い決定した。年度別改修計画に基づき、改修工事（平成17年8～9月及び平成18年2～3月（予定））を行い、実習室などを整備することとした。	1
	・多目的グラウンドの改修を行う。		多目的グラウンドの表土入れ替え改修を行い、屋外体育施設を整備する予定としている。	1
			ウェイト小計	2

その他の業務運営に関する重要事項
2 安全管理に関する目標

中期目標	防災体制の構築及び、教育研究環境の安全・衛生に関する体制の整備を図る。
------	-------------------------------------

中期計画	年度計画	進行状況	判断理由（実施状況等）	ウェイト
・労働安全衛生法等関連法令を踏まえた安全管理体制を整備する。	・教職員に対し労働安全衛生法に基づく、安全管理に関する研修、意識の啓蒙を行う。		安全衛生委員会を設置し、安全管理に関する研修会の実施、講習会の参加、資格の取得、構内の巡視及びポスターの掲示等による意識の啓蒙を行った。 ア 研修会の実施 初任者を対象とした研修会を平成17年4月に実施し、13名が参加した。 イ 外部の講習会への参加 刈払機取扱作業安全衛生教育（平成17年6月実施：1名参加） ウ 構内の巡視 安全衛生委員により毎月実施し、点検を行い、不備な箇所については改善を要請 エ ポスターの掲示 全国安全週間ポスター16種類20枚を購入し、掲示板等に掲示	1
・防災計画に基づき、教職員、学生全員参加の防災訓練を定期的実施し、防災意識の向上を図るとともに、非常時の避難等がスムーズに行われるよう各種対策を講じる。	・全学を対象とした防災訓練を実施する。		学生及び職員を対象に適切な通報連絡と初期消火、迅速・安全・統制ある避難、自衛消防隊の任務・行動の理解、防火意識の高揚を目標とし、高岡消防署と連携した消防訓練を平成17年6月に実施し、約350名が参加した。結果は概ね良好であった。	1
	・常に避難経路等の点検を行い、スムーズな避難が行える体制を維持する。		安全衛生委員が毎月の巡視において点検を行い、避難路の確保について注意喚起等を行っている。 芸術文化学部においても、危機管理委員会を設置し、危機対策のマニュアルの作成、研修の実施等について検討することとしている。	1
・建物の安全管理システムの構築について検討する。	・建物の安全管理システムの構築等について検討する。		安全衛生委員会を毎月定期的に開催し、安全点検表を作成し、各室に配置した安全担当者が施設等を毎月点検して安全衛生委員会に報告し、不備な箇所については安全衛生委員会が改善を要請している。 また、本学における災害、盗難等の予防及び防止に関する対策を検討し、快適な大学環境を維持するため、危機管理対策委員会を設置した。 芸術文化学部においても、危機管理委員会を設置し、危機対策のマニュアルの作成、研修の実施等について検討することとしている。	2
・施設・設備を安全に使用できるように作業環境に配慮し、安全教育の充実を図る。	・施設・設備、電動工具などの取扱いに注意を払い、すでに行っている科目の安全教育内容を充実する。		産業造形学科の専門教育科目「加工機械の安全操作（2単位）」、特別講義「金属加工機械の安全操作（1単位）」、特別講義「溶接（1単位）」（集中講義）を行い、木材および金属加工機械の安全操作教育を徹底した。 産業デザイン学科では、特に危険な機械は使用しないが、他学科の授業である「加工機械の安全操作」と「金属加工機械の安全操作」の受講を進めており、今年度は4名と10名が受講した。	2
			ウェイト小計	7

3 その他の業務運営に関する重要事項
北陸地区の国立大学連合に関する目標

中期目標	平成14年に北陸地区国立大学の教育研究の活性化を図ることを目的に結成した、「北陸地区国立大学連合」を強化し発展させる。
------	---

中期計画	年度計画	進行状況	判断理由（実施状況等）	ウェイト
・平成14年に北陸地区国立大学の教育研究の活性化を図ることを目的に結成した、「北陸地区国立大学連合」について、今後単位互換、公開講座の共同開催等この目的に沿った事業の具体化を目指す。 ・「北陸地区国立大学連合」間に共通する業務の効率化、省力化を図るため、事務的な面での共同業務処理の可能性について検討する。	加盟6大学が共同開催する公開講座の実施等について検討する。		北陸地区国立大学連合協議会において、富山県の3大学統合後に、平成17年度「北陸4大学連携まちなかセミナー」の実施について検討し、平成17年11月～12月に金沢市、福井市及び富山市において「食と健康」を全体テーマとして講演を行うこととした。 日時 平成17年11月3日（予定） 場所 金沢大学大学教育開放センター テーマ 生活習慣病の予防	1
			日時 平成17年11月12日（予定） 場所 福井大学アカデミーホール テーマ あなたをねらう糖尿病	
			ウェイト小計	1
			ウェイト総計	10

〔ウェイト付けの理由〕

建物の安全管理システムを構築することについて、安全衛生委員会及び危機管理対策委員会を設置し検討したこと、また、芸術文化学部に危機管理委員会を設置し検討することとしたことは、安全管理システムを構築する上で重要な事項と考えており、ウェイトを2とした。

安全教育に関する科目を開講し、加工機械の安全操作教育を徹底することは、学生への安全教育を推進する上で重要な事項と考えており、ウェイトを2とした。

<p>その他の業務運営に関する重要事項 関係特記事項</p>

施設の有効活用について

本学（高岡短期大学）における施設有効活用に関しては、次のとおり実施している。

1 グループウェアによる講義室等の予約

本学では、グループウェア（サイボウズ）を利用して、事務職員は誰でも講義室等の使用予約をできるようにした。これにより、講義室等の使用についての連絡調整等の業務負担が低減された。

グループウェアで使用予約できる部屋は次のとおり。

全講義室（講義室、演習室、メディアルーム、CGルーム、LL教室、映像利用室、映像作成室）

全会議室

講堂

展示会会場（TSUMAMA-HALL、ホワイエ、展示室）

また、テニスコート、多目的グラウンド、第1体育館については、グループウェアによる予約はできないが、随時その予約状況を学内・学外に公開し、利用者に対し便宜を図っている。

2 芸術文化学部設置準備委員会施設・設備部会

本学は、平成17年10月の県内3国立大学の再編統合により、（新）富山大学の芸術文化学部となる。平成18年4月の学生の受入れ、教員の新規採用等に合わせて、これまでの講義室・研究室等の配置を全面的に見直し、スペースを最も効率的に利用できるように検討する組織として、芸術文化学部設置準備委員会の下に施設・整備部会を設置し、新たな講義室・研究室等の配置について鋭意検討を行った。

芸術文化学部のコースに基づき、各コースのエリアを定め、関連する教員や関連する設備等を集中させ、施設の効率的な運用を図ることとした。

改修工事は、本学の夏期休業及び後期授業終了後に集中して実施し、在学生の授業に影響がないよう配慮している。また、改修工事は平成17年度から平成19年度にかけて実施する。

各コースのエリア

共通工房エリア

地域づくり・文化支援センターエリア

研究室エリア

芸術芸術コースエリア

デザイン工芸コースエリア

デザイン情報コースエリア

マルチメディアエリア

造形建築科学コースエリア

製品科学エリア

文化マネジメントコースエリア

リテラシーエリア

保健管理センターでのメンタルヘルス相談について

本学（高岡短期大学）では、学生の心の健康の保持・増進を図り、充実した学生生活となるよう、学生と教員との円滑な関係を支援し、社会適応を促すため、学生にカウンセリングを実施している。

平成17年4月からは、職員の心の健康の保持・増進を図るため、カウンセラーを1名増員し、月2回職員からの相談に応じている。カウンセリングを行うことにより、職員の心の健康の保持・増進を図り、職員が健全に勤務できる状況を支援している。

職員対象のカウンセリングの体制

期 日： 第1、第2金曜日 14時00分～18時00分

場 所： 本学保健管理センター相談室

講 師： 精神保健福祉士

カウンセリングの内容：

カウンセリング

各種心理テストの実施

平成17年度相談実績： 9件

予算（人件費見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画

財務諸表及び決算報告書を参照

短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実績	
1 短期借入金の限度額 3億円 2 想定される理由 運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすることが想定される。	1 短期借入金の限度額 3億円 2 想定される理由 運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすることが想定される。	短期借入金無し。	

重要財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実績	
重要な財産を譲渡、又は担保に供する計画はない。	重要な財産を譲渡、又は担保に供する計画はない。	重要な財産を譲渡し、又は担保に供しなかった。	

剰余金の使途

中期計画	年度計画	実績	
決算において剰余金が発生した場合は、次の経費に充てる。 ・教育研究の質の向上及び組織運営の改善のための経費	決算において剰余金が発生した場合は、次の経費に充てる。 ・教育研究の質の向上及び組織運営の改善のための経費	該当なし。	

そ の 他 1 施設・設備に関する計画

中 期 計 画			年 度 計 画			実 績		
施設・設備の内容	予定額(百万円)	財 源	施設・設備の内容	予定額(百万円)	財 源	施設・設備の内容	決定額(百万円)	財 源
小規模改修	総額 7 8	施設整備費補助金 (7 8)	校舎改修 (芸術文化学部) 小規模改修	総額 4 7	施設整備費補助金 (3 4) 国立大学財務・経営センター 施設費交付金(1 3)	校舎改修 (芸術文化学部) 小規模改修	総額 1 8	施設整備費補助金 (1 8) 国立大学財務・経営センター 施設費交付金(0)
<p>(注1)金額については見込みであり、中期目標を達成するために必要な業務の実施状況等を勘案した施設・設備の整備や老朽度合等を勘案した施設・設備の改修等が追加されることもある。</p> <p>(注2)小規模改修について平成17年度以降は平成16年度と同額として試算している。</p> <p>なお、各事業年度の施設整備費補助金については、事業の進展等により所要額の変動が予想されるため、具体的な額については、各事業年度の予算編成過程等において決定される。</p>			<p>注)金額は見込みであり、上記のほか、業務の実施状況等を勘案した施設・設備の整備や、老朽度合い等を勘案した施設・設備の改修等が追加されることもあり得る。</p>			<p>注)竣工又は納入額</p>		

計画の実施状況等

校舎改修については計画変更し、平成17年12月に発注予定である。

そ の 他 2 人事に関する計画

中 期 計 画	年 度 計 画	実 績
<p>(1)常勤職員の人事管理にあたっては、定員を設定し、学科・課の枠を越えて学長の下に一元的な管理を行う。</p> <p>(2)地域の伝統工芸や産業，芸術，文化の発展に寄与する教育研究を推進するため，全学的な観点から教員構成の多様化に努めるとともに，教員の流動性を図る。</p> <p>(3)事務職員の専門的能力や資質の向上のため，多様な研修機会を確保するとともに，県内他大学等との人事交流を推進し，適切な人事配置に努める。</p> <p>(4) 常勤職員について，その職員数の抑制に努める。</p>	<p>(1)常勤職員の人事管理にあたっては，定員を設定し，学科・課の枠を越えて学長の下一元的な管理を行う。</p> <p>(2)事務職員の専門的能力や資質の向上のため，多様な研修機会を確保するとともに，県内他大学等との人事交流を推進し，適切な人事配置に努める。</p>	<p>常勤職員の人事管理にあたっては，本年度も定員を設定し，定員の管理については，学科・課の枠を越えて学長が一元的な管理を行った。教員の欠員補充については，全学的観点から，役員会、教育研究評議会の議を経て1人の採用を決定した。</p> <p>事務職員の人事交流については，富山県内外の国立大学と次のように実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外への転出者4人（筑波大学1人、静岡大学1人、富山大学2人） ・本学への転入者3人（福井大学1人、富山大学2人） ・東海・北陸地区会計事務職員研修（平成17年9月7日（水）～9月9日（金））（岡崎） 1人 ・事務系職員英会話実地研修（平成17年8月17日（水）～8月30日（火））（アメリカ） 2人

(参考)

	平成17年度
(1) 常勤職員数	87人 (役員を除く)
(2) 任期付職員数	5人
(3) 人件費総額(退職手当を除く)	428百万円
経常収益に対する人件費(退職手当を除く)の割合	41%
外部資金により手当した人件費(退職手当を除く)を除いた人件費	425百万円
外部資金を除いた経常収益に対する上記の割合	43%
標準的な常勤職員の週あたりの勤務時間として規定されている時間数	40時間

別表（学部の学科、研究科の専攻等）

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
[学科]	(a) (名)	(b) (名)	(b)/(a) × 100 (%)
産業造形学科	100	102	102
産業デザイン学科	50	54	108
地域ビジネス学科	250	268	107
計	400	424	106
[専攻科]			
専攻科産業造形専攻	28	48	171
専攻科産業デザイン専攻	10	17	170
専攻科地域ビジネス専攻	12	17	142
計	50	82	164

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率

計画の実施状況等

本学の学科及び専攻科の収容数については、すべて、収容定員に対し、100%を超える収容数となっている。

専攻科については、収容定員と収容数に差があるが、これは、専攻科志願者数の増加に対応し、本学として対応が可能な範囲で収容数を増加したことによるものである。本学の専攻科は、大学評価・学位授与機構の認定を受けており、所要の単位を修得の上、大学評価・学位授与機構の審査に合格することにより、4年制大学卒業と同じ学士の学位を取得することが可能となっている。

平成14年度入試の専攻科志願者数は53人(2.1倍)、平成15年度入試の専攻科志願者数は56人(2.2倍)、平成16年度入試の専攻科志願者数は63人(2.5倍)、平成17年度入試の専攻科志願者数は69人(2.8倍)となっており、毎年志願者数が増加している。

このことも踏まえ、本学は、富山大学、富山医科薬科大学と再編・統合のうえ新大学を創設することに合意し、平成17年10月に芸術文化学部(4年制)に再編・改組する予定で準備を進めている。